

## 青年技術士交流実行委員会 活動年鑑 2011

### 目次

1. 青年技術士交流実行委員会 2011 年度活動報告
2. 例会活動報告
  - 2.1 例会グループ活動報告
  - 2.2 例会報告
    - (1) 6月例会：エネルギー問題についてディベートしてみよう
    - (2) 全国大会青年技術士の集い
    - (3) 全国大会青年技術士の集い懇親会
    - (4) 平成 23 年度一次試験合格者ガイダンス パネル討論
    - (5) 2月例会：講演討論会「東日本大震災と福島原発から学ぶリスクマネジメント」
    - (6) 4月特別例会：一次・二次試験合格者歓迎会&青年技術士展 2012
  - 2.3 テクノツーリズム報告
    - (1) 全国大会：「東京湾岸観察・活動会」
    - (2) 「港湾工事の作業船舶」
    - (3) 「コンサルティングにも役立つコーチング手法について」
    - (4) 「種類、製法、歴史からみる日本酒の新たな楽しみ方」
  - 2.4 サッカー・フットサル交流
3. 国際交流活動報告
  - 3.1 国際交流グループ活動報告
  - 3.2 活動報告
    - (1) 2011 年第 41 回日韓技術士大会参加報告
    - (2) YEAFEO in Brunei 活動報告
    - (3) 国際交流活動講演会
4. 各地域本部活動紹介
  - (1) 北海道本部
  - (2) 東北本部
  - (3) 総括本部
  - (4) 中部本部
  - (5) 北陸本部
  - (6) 近畿本部
  - (7) 中国本部
  - (8) 四国本部
  - (9) 九州本部

## 1, 青年技術士交流実行委員会 2011 年度活動報告

本委員会は、研修委員会の下部組織であり、各部会から推薦された委員、委員補佐により構成されています。委員には各地域本部より推薦された地域本部委員も含まれます。本会運営への青年層の参画及び国内外を問わず技術者間の“交流”を通しての研鑽を実施しています。

2011 年度の主な活動を下記にまとめます。

### 1-1. 特別例会

2011 年 4 月 23 日、青年技術士交流実行委員会主催『1・2 次試験合格歓迎会および青年技術士展』では各部会からの出席者（14 名）による活動紹介の機会を設けると共に、東日本大震災をテーマとしたディスカッションを参加者全員で行いました。4 つのテーマに別れて行ったディスカッションの成果は展示すると共に、委員会 HP に公開を行っています。

### 1-2. 若手技術者の国際交流活動

- ・ 2011 年 10 月 13 日～15 日に韓国・大邱(テグ)で開催された日韓技術士会議の本会議および第五分科会、サッカー親善試合に参加しました。
- ・ 2010 年 11 月 27 日～30 日にブルネイで開催された ASEAN 技術者協会連合『YEAFEO17』への参加の支援をしました。3 名の会員を派遣し、2012 年 1 月 21 日の国際交流活動講演会で『YEAFEO17』の参加報告および派遣者による講演会を行いました。

### 1-3. 若手技術者向け研鑽事業

講演会・勉強会 3 回、テクノツーリズム 4 回、スポーツ交流含む交流会を 5 回、国際交流成果発表会を実施しました。技術士を中心とした講師による野外観察活動や講演討論会は、多くの技術士・修習技術者に参加いただくことができ、青年層を中心とした会員へのサービス提供のみならず、技術士会への入会促進にも繋げる活動の道筋を築くことができました。

2012 年 1 月 28 日開催の技術士第一次試験合格者歓迎会・JABEE 修了見込者ガイダンスにおいて、パネルディスカッションを企画・開催しました。

#### 1-4. 各地域本部青年技術士組織との交流

地域部交流会議を開催するとともに、東京で開催された技術士全国大会において「青年技術士の集い」を開催しました。テーマを『青年技術士と語る、これからの 10 年。日本の復興に向けて』とし、討議テーマを設けてのディスカッション大会形式としました。また青年技術士交流会誌を作成し、配布を行いました。来年度以降開催される全国大会においても、各組織との交流を継続する予定です。

青年層は企業内技術士も多く、出張や異動転勤等に伴う地域間の移動もあることから、全国の地域本部青年組織とのネットワークを活かし、技術士青年層のサポートにも努めて参ります。また、青年組織の設立や技術士会組織との関係を築く取り組みに対して、引き続き連携を取って参ります。

#### 1-5. 新たな情報配信の試み

青年委員会活動をより深く身近に理解していただくために、2010 年度青年技術士交流実行委員会活動年鑑を制作し、青年技術士交流実行委員会のホームページ及び活動毎のブログを運営しております。さらに東日本大震災以降は、青年技術士交流実行委員会有志で技術者からの災害支援ブログを開設し、技術者の立場から役に立つ情報を発信してきました。

また、ホームページやブログを積極的に更新し、活動紹介、主催行事の事前広報および事後報告に活用しております。

さらに、統括本部事務局において設計中の IT を活用した会員サービスの試用について協力・提言を行っております。

#### 1-6. 委員会の運営・企画・管理および広報活動

上記の活動を企画・実施するため、毎月定例会議（運営委員会）を青年層の参加しやすい土曜日を中心に開催しています。

サーバーを利用して会議・例会への出欠管理や意見交換を行い、また議事録・資料等をデータベースにて保存管理することで運営の利便性や継続性、活性化を図っております。

また、さらなる委員会活動の充実を図ることを目的に、例会企画案のコンペを実施し、実際の活動段階に移っており、その中の一つは全国大会時にテクノツーリズムとして実施されました。

その他、国際交流や活動紹介のポスターを作成し、活動報告書と共に合格者歓迎会等で展示をしております。これらのポスターは単なる活動の概要ではなく、各国青年技術者の写真の活用や、アバター（似顔絵イラスト）を利用したメンバー紹介など、人を前面に出した PR を行うことにより、交流の楽しさを通じて技術士会への敷居の低さを実感できるようにしました。

例会グループ活動報告（2011年6月～2012年05月）

例会グループリーダー 山中 淳至

1. メンバー

山中、小澤、片桐、佐藤、中村、石井

2. 今期の活動

- ① 例会：平成22年11月に開催した委員会合宿において、平成23年8月の全国大会のテーマ「地球再生へのメッセージ～世界・アジア・日本における技術士の役割～」をコンセプトとした、原則参加型の例会を企画することとし、平成23年8月まではコンセプトに沿った例会を実施した。平成23年9月は任期満了に伴う委員の交代があり、全国大会後は新任委員への青年委員会の活動方針やなどの教育及び委員全体の共通認識を持つための合宿を改めて行った。その中で、今期の青年委員会としては、「交流」を最上位のテーマとし、例会を企画することを決めた。
- ② サッカー/フットサル：活動を始めて今年で5年目となり、参加者の増加及び定着を目的にホームグラウンドを決め、定期的（2～3ヶ月/回）な練習会を行った。また、日韓技術士サッカー大会の勝利及び地域本部との交流を目的とした合同練習会も実施した。

3. 成果

① 例会

例会の内容は今までと同様に原則参加型の例会の企画を継続している。特に4月特別例会では「交流」をテーマとしたディスカッションを参加者で行った。参加型の例会は委員を含めお互いが会話をすることで、適切な交流が図られるためか、参加者の満足度も高い。例会参加者も増加傾向にあることから、ディスカッションやディベートなど参加型例会は今後も継続して企画する方針である。

開催日	開催名（テーマ）	人数
06月25日	エネルギー問題についてディベートしてみよう	22
08月07日	ビアパーティー	11
08月27日	青年技術士の集い	72
08月28日	東京湾岸観察・活動会	44
10月30日	自己紹介プレゼン（委員会内例会）	12
12月18日	コンサルティングにも役立つコーチング手法について	30
01月21日	国際交流報告会	22
01月28日	平成23年度 技術士第一次試験合格者・JABEE 修了見込者ガイダンス	160 *1
02月25日	東日本大震災と福島原発から学ぶリスクマネジメント（講演討論会）	45
04月28日	4月特別例会「1・2次試験合格者歓迎会、青年技術士展2012」	71

\*1) 修習委員会主催

② サッカー/フットサル

個人の技術や体力も徐々に上がってきていると共に、チーム内の交流も図れてきている。新しい参加者も増え、参加者は20名程度で推移している。平成23年10月に韓国の大邱市で行われた日韓技術士サッカー大会では昨年の下関に引き続き韓国に勝利することができ、一定の成果を挙げていると考えている。

開催日	開催名（内容）	場所	人数
06月18日	フットサル練習会	東京都立川市	15
07月31日	フットサル練習会	神奈川県横浜市	18
09月10日	サッカー交流会	新潟県新潟市	34 *1



10月13日	日韓親善サッカー大会（第7回、勝利）	大邱市, 韓国	19
12月17日	サッカー交流会	千葉県市原市	28 *1
02月11日	フットサル練習会	神奈川県横浜市	17
03月17日	サッカー交流会	新潟県新潟市	31
05月12日	フットサル練習会	神奈川県横浜市	24

\*1) 北陸支部との合同練習

#### 4. 今後の展開

- ① 青年技術士（者）に対し、魅力があり、継続して参加したくなるような例会を企画するため、その内容だけでなく、委員の質も向上させて行きたい。
- ② サッカー/フットサルは、例会とは違った交流の手段のひとつとして有効になるように努めて行く。

行事名	6月例会:エネルギー問題についてディベートしてみよう
日時	2011年6月25日 13:30~15:50
場所	葺手第二ビル 5F 会議室 A,B
講師、発表者	説明:石井委員 ディベート参加者:10名
担当者: (○印:リーダー)	○根本 英俊、石井 利教、武井 遼
参加者数	22名(内委員 9名)

### 1. 背景・目的

東日本大震災とそれに引続き発生した原子力発電所の事故、夏季に予想される電力供給の逼迫から、エネルギー問題に関する関心が高まっている。但しこの問題は立場や利害により議論することが難しい。そこで、ディベート方式により、立場を超えての議論を可能にし、幅広い意見、知見を得るとともにディベート能力を高める訓練の機会とするため企画した。  
デリケートな問題で実験的な試みとなるため、不特定多数の参加を避けるため、過去の例会への出席者中心に案内を実施した。

### 2. 例会内容

- 1) 司会(根本)から主旨の説明のあと、石井委員によるディベートの基本ルールと注意事項の説明を実施。
- 2) テーマの提示:「原子力発電所は廃止すべきである。是か非か。」
- 3) 審判と選手の選出

審判:横田委員 春日委員

選手:肯定側、否定側、各5名をくじ引きで選出。参加頂いた方は下記の通り。

申込時参加希望者 中島さん(農業・修習)、山本さん(環境・修習)、和田さん(環境)、太田さん(情報)、葛西さん(機械・修習)、松田さん(繊維・修習)

申込時観戦希望者から例会中に募集により

大治さん(機械・修習)、澤田石さん(情報・修習)、昆野さん(上下水道・修習)

委員から 鳶田委員

#### 4) ディベートの実施

・肯定側は、

- 1.今回実証された様に、原子力発電は危険である。
- 2.廃棄物処理の問題が解決されていないため後世に負の遺産を残す。
- 3.リスクや処理を織り込むと発電コストは安価ではない。

の3点を軸に主張を展開。

・否定側は

- 1.原子力発電に関しては、日本は高い技術力を持っており、ベトナム等海外からの期待も大きく国益に繋がる。
- 2.電力の安定供給は経済の発展のために必要であり、安定供給のためには現状原子力は不可欠である。

の2点で主張を展開した。

#### 5) 判定

僅差であるが否定側がやや説得力が勝っていたという判定であった。

横田委員判定結果 肯定側 65点 否定側 70点

春日委員判定結果 肯定側 67点 否定側 68点

#### 6) 実施しての感想

傍聴頂いた方も含め全員から実施の感想を頂いた。

- ・ディベートのやり方が判り勉強になったという意見が多かった。
- ・ディベートとしては審判や傍聴者に対するアピール(プレゼン)の意識が低かったという意見があった
- ・技術士を目指すのであればエネルギーの問題に関してもっと深掘りした意見を持つべきとの意見もあった。
- ・ディベートの討議の中で、原子力発電の弱点としてのテロ対策に関する議論がなかったという指摘があった。

### 3. 成果と所感

- ・原子力とエネルギーの問題は個人的にも興味があり、議題にしたいテーマであったが、扱い方が難しいという問題があった。今回とったディベート方式により、紛糾する事がなく例会が実施出来た。  
参加協力頂いた皆様に感謝したい。
- ・ディベートの勉強のために若い方中心に選出したが、感想で意見が出た様に深掘りに欠けた感があった。  
参考のために多少の資料は準備したが、選手指名から短時間で討論に入るため閲覧する余裕は無い様であった。修習技術者でも深い議論が出来る様、エネルギーの問題に関する説明的な講義等組合せ、意識形成のための時間を取ったほうが良かったかと思われる。
- ・今回のディベートでは反駁(質問と回答)のターンにて論点の食い違いが発生した。何らかの細かいルール決めが必要であった。
- ・石井委員によるディベートの基本の説明はアンケートでも評判が良かった。次回同様の企画を行う場合、今回の資料は有用と考える。

### 4. 今後の展開

- ・様々な側面から物事を見る事は技術士、技術者にとって不可欠の素養であるが、今回実施したディベートが一助となることを確認した。
- ・青年委員会で原子力とエネルギーの問題について討論する場を持ったという事実は、全国大会「青年の集い」にて、技術者以外から意見を頂くための導入として紹介する価値があると考えます。

文責 根本 英俊

行事名	第38回技術士全国大会 青年技術士の集い
日時	2011年8月27日 13:00~16:30
場所	東工大蔵前会館 ロイヤルブルーホール
担当者: (○印:リーダー)	○根本 横井 横田 中嶋 末廣 松永 鷹尾伏 サポートメンバー 佐藤(泰) 葛西 澤田石 昆野
参加者数	68名 (内 地域本部員 25名 統括本部員17名)

## 1. 背景・目的

「地球再生へのメッセージ」～世界・アジア・日本における技術士の役割～ をテーマに、第 38 回技術士全国大会(東京大会)が 8/25~27 の日程にて開催された。その行事の一環として、青年技術士交流実行委員会(以下青年委員会)主催による、青年技術士の集いを実施した。

3/11 に発生した、東日本大震災とそれに引続き発生した原子力発電所の事故は、科学技術に対する信頼に疑問を呈した。そこで、今回の青年技術士の集いは、科学技術は何をもたらして来たか、技術士(者)には何が求められているか意見を問う機会にしたいと考え、テーマを『青年技術士と語る、これからの 10 年。日本の復興に向けて』とし、討議テーマを設けてのディスカッション大会形式として開催した。

## 2. 内容

技術士全国大会の本大会は経団連会館で実施したが、青年技術士の集いは本大会翌日の午後であり、本大会の延長での参加が見込めないこと、全国大会の申込経路のみでなく、青年委員会独自にも参加者募集を募集したいと考えたことから、同会館での実施には拘らず会場の選定を行った。結果、設備が充実しており雰囲気も良く、かつ安価に借りることが出来ることから、東工大蔵前会館を会場として選択した。

全国大会で使用したポスター掲示やこれまでの活動報告を展示することにより青年委員会の活動紹介の補足としたほか、受付後開始時間までの待ち時間に、本大会で使用した青年委員会紹介のスライドを流すことにより、委員会紹介の時間を短縮しディスカッションの時間を多くすることを図った。

### 2-1. 青年委員会活動の紹介と東北からのメッセージ

司会の鳥田委員からの開会挨拶とプログラム紹介のあと、ディスカッションのための呼び水となる様、青年委員会の活動の紹介を各担当より実施した。内容は下記である。

#### 1) 例会活動紹介 (山中委員)

- ・2010年10月の合宿にて委員間で共有した、青年委員会の例会企画のコンセプトの紹介
- ・4月特別例会 合格者歓迎会にて、「技術士になった自分に何が出来、またどうして行くか」をテーマに実施したグループディスカッションの成果の紹介
- ・6月例会にて、「原子力発電所は廃止すべきである。是か非か」を命題にディベートを実施した成果の紹介。

#### 2) 国際交流グループ活動紹介 (三留委員)

青年委員会の国際交流の概要(YEAFEO,日韓,香港交流)と、今回の震災に関連して意見を募集した、各国での震災の報道の状況と原発の影響と対応、各国の自然災害について寄せられた内容のまとめを紹介。例えば原発の影響に関しては、シンガポールでは輸入食料に、香港では近隣の原発の脅威等、国柄により最重要とする問題点が異なることは興味深い内容であった。

#### 3) 地域本部交流活動紹介と東北からのメッセージ

武井委員による青年委員会の地域本部交流の状況の紹介に引続き、今回の被災地である東北本部からのメッセージ紹介。渡邊委員による、目を瞑って朗読を聞いての震災発生時の生々しい状況の体感をした後、桂委員による、小さなことでも自分が出来ることをやっていけば大きな変化に繋がる可能性があるというメッセージであった。

### 2-2. ディスカッション

ディスカッションのテーマは 3 テーマ用意し、それぞれ 2 グループ割振った。各グループにはコーディネーター2名(主、副)と書記代わりのPC担当を配置した。また討議用資料として全国大会寄稿の抜粋、討議様フォーマット等を各テーブルに配置した。討議テーマは下記を用意した。

- A. リスク管理、危機管理。「想定外」って誰が決める？
- B. 日本のものづくりの強み、弱みとは。アジア・世界の中での分担と協業は。
- C. 情報ネットワークの危機管理とサービスによる脅威の軽減。

約 100 分間、討論を実施し、グループ毎に討議内容の発表をし、最後にまとめるという形式を取った。初対面同士でありながら緊張して固くなる様子もなく活発に討議が行われた。

#### ・グループ討議結論

A-1: 技術者は、技術の客観視をしよう。

A-2: 技術者は、あらゆる人との情報交換を行おう。

B-1: 今はじたばたしよう、技術者はユーモアを持とう。

B-2: 技術者は、価値の追求をして行こう。

C-1: 技術者は、正しい情報を伝えられるようになろう。

C-2: 技術者は、あこがれられる存在になろう。

・これら討議結果ととりまとめ、田村委員長より、以下を今回の青年技術士の集いまとめとして報告した。

私たちは、情報交換・発信・共有を通してつながっていく。

技術者には「殻を破ること」を期待する。

### 3. 成果と所感

第 38 回技術士全国大会行事、青年技術士の集いの企画は昨年よりを検討していたが、3/11 に発生した震災により中断を余儀なくされた。しかし今回の震災は、技術に関心を持ち、どう関わるべきか考える機会になった。そこで、今回の青年技術士の集いは、技術者は何をし、どう動くことを期待されているか広く問う機会にしたいと考え、4 月特別例会や 6 月例会で事前討議を重ね、海外からの声を聞いて披露し、ディスカッション形式で意見を抽出する機会とした。東北地域本部の委員による「東北からのメッセージ」は、ディスカッション前に気分的な締りを与え、参加者全員が真剣な討議にスムーズに入ることが出来た。

今回の討議まとめにより技術者、技術士の歩むべき道の方向付けが与えられたというまでには達していない。しかし今回の討議を通じて様々な意見が出され、討議フォームとして保管されたことは成果であると考え。これらを再度熟読し、内容を分析分解し、必要があれば細部テーマに分けて再討議することにより、今後の復興と発展を担う技術者育成につながる機会を再度与えることになると考える。

また、今回の青年技術士の集いには、中小企業診断士の皆様をはじめ技術士以外の方に多く参加頂き、交流を深める機会になった。技術士会会員の殻の中に閉じこもらず、異業種交流を積極的に行う、青年委員会らしいイベントになったと考える。

### 4. 今後の展開

今年中に田村委員長はじめ多くの委員が退任し、新委員長を中心に新たな体制が築かれることになる。今回持てた技術士及び技術士以外の方との交流、今回行った討議内容の共有により、これまで培ってきた青年委員会の理念が確実に継承されるものと考え。

文責 根本 英俊

行事名	第38回技術士全国大会 青年技術士の集い 懇親会
日時	2011年8月27日 17:00~19:00
場所	東京工業大学博物館4F レストラン角笛
担当者: (○印:リーダー)	○末廣、武井、渡邊、北條、中垣、小澤 サポートメンバー 葛西、澤田石、昆野
参加者数	57名(?)

### 1. 背景・目的

青年のつどいの参加者間の交流を図ることで人脈形成を促進する。

### 2. 内容

①開会のあいさつ(田村委員長)、次回全国大会の紹介(近畿)

②乾杯(榊修習委員長)

③各本支部の委員紹介

④余興「クイズ:あなたの防災・省エネ技術能力は?」(渡邊委員補佐)

- ・ 懇親会受付時に渡したチケットにより割り当てられたグループ毎(4-5人)に賞品を目指してクイズに臨んだ。
- ・ クイズ内容は青年技術士の集いでも討議された防災や省エネ等に関する一般問題。
- ・ 五択形式の勝ち抜き戦で行われ、渡邊委員補佐の絶妙な司会により、大いに盛り上がり、かつ、スムーズに執り行われた。
- ・ 賞品はこれまで YEAFEO 等で交流してきた成果である各国からのお土産の品々で、上位 3 チーム(15名)に授与された。

⑤閉会のあいさつ(武井委員)

⑥写真撮影

### 3. 成果と所感

余興等を通じて、住む場所、職業、年齢の異なる青年技術士の集いの参加者間の交流を図ることができた。前段の青年技術士の集いが延長していたため、開始が 15 分程度遅れたが、事前に受付をしていたこと、名司会によるスムーズな進行ができたこと、会場に融通をきかしていただいたことにより、2 時間の時間内で無事おさめることができた。料理内容、お酒も余ることなく、不足することなく、適切な量を提供できたと考えられる。

反省点としては、司会進行が当日口頭伝達のみであったため、メモの事前作成を行っておくべきであったかと思う。また、本支部ごとで集まって話をする傾向がややあったと思うため、主催側が意識的に各支部の方と交流を図るよう促してもよかったと思う。

### 4. 今後の展開

今回は技術士以外の方も対象とした会であったが、結果としてはほぼ技術士(補)関係者であった。会の目的にもよるが、今後は例会等も含め、技術士以外の方にも積極的に参加いただける内容、体制、広報をしていきたいと思う。

文責 末廣 多恵子

行事名	平成23年度技術士第一次試験合格者・JABEE 修了見込者ガイダンス パネルディスカッション
日時	2012年1月28日(土)15:30~17:30(質疑応答含)
場所	学士会館202
講師、発表者	コーディネータ:横田幸利(衛生工学) パネリスト: 技術士 宮西健次(化学/近畿青年技術士懇談会)、山本憲志(金属) 技術士補 末廣多恵子(化学)、 修習技術者 澤田石朋彦(情報工学)、野口賢晃(応用理学/JABEE)
担当者: (○印:リーダー)	横田幸利
参加者数	160名程度(参加申込者数)

## 1. 背景・目的

修習委員会が主催する第一次試験合格者・JABEE 修了見込者ガイダンスにおいて、パネルディスカッションのコーナーを青年委員会にて担当した。青年技術者の一層の会員拡大を目指し、ディスカッションを企画する側として次のようなコンセプトのもとに実施した。

1)参加者(2次試験突破を目指す者)にとって有益な情報は何か、それを提供する。

2)主催側は技術士会に入会して欲しいと思っている。参加者にそういう気持ちを持たせられるか。

この点を踏まえ、本年は、前半部を技術士からの合格体験記として独立させた形とし、後半部を修習技術者からの「相談」に技術士が「アドバイス」という視点でディスカッションの流れを構成し進行することとした。

## 2. 内容

タイトル及び各テーマは修習委員会と武井委員長の打合せにて決定していたため、その結果に基づき詳細を決定していった。なお、各テーマそれぞれのコンセプトからは青年側にて企画した。内容は次のとおり。

タイトル:「技術士を目指そう」~それぞれの立場で挑戦~

テーマ1「合格体験記」:

技術士の二人に、二次試験合格者体験談として、合格までの取り組みやモチベーションの維持、苦労話や失敗談を発表してもらおう。

テーマ2「挑戦」:

修習技術者の3名に、これから二次試験を目指すものとして、現在の取り組みや心配事などを発表してもらおう。その後、技術士の二人に、発表した内容に関する取り組みや心配事などについてアドバイスしてもらおう。

テーマ3「自分磨きと日本技術士会」:

技術士会に入会したいきさつや、利用実績、それを2次試験にどう生かしたかなど、各自の日本技術士会との関わりと、そこから得られたことなどについて質問形式でディスカッションを行う。

テーマ4「技術士として」:

技術士の二人から、取得した「技術士」の資格は自分にとってどんなものであったか、思いを語ってもらおう。また、名刺に「技術士」と入れた時の自己意識の変化や、各自の職場や職務でどう生かしているかなどを紹介してもらおう。

テーマ5「それぞれの道」:

どのような技術士になりたいか、パネリストそれぞれにもう一度思いを語ってもらおう。

### 3. 成果と所感

今年のパネルディスカッションは、壇上のパネリストに参加者自身を重ね合わせてもらい、技術士から自らがアドバイスを受けているように有益になる情報を提供する、ということを考えていた。終了後の交流会で感想を聞くと、面白かった、ためになったと言ってくれる人がほとんどで、まずは成功であったと思っている。また、壇上から見ている限りではほとんどの人が壇上を見ており、興味を持って聞いてくれていたようであった。

事前に関係者で集まることはできず、連絡の一切をメールのやり取りのみで行ったため、できるだけ詳細にこちらの意図を説明するよう心掛けた。結果からすると、コーディネータとパネリスト、また、パネリスト間、修習委員会側との情報伝達も上手くいき、全体としても上手くいったと考えている。

今回は、「技術士からのアドバイス」というコンセプトのとおり、技術士の二人には非常に話してもらった項目、時間が多く、成功したのはこの二人によるところが大きい。参加者からも「面白さ」と「熱意」が伝わったとの感想が多く、準備に苦労して頂いた、二人の思いに感謝申し上げたい。

また、技術士補、修習技術者の3人にも、色々面白おかしく、まじめに語って頂き、目標の高さと自己分析の冷静さがあれば技術士になることも間近であろうと推察する。めでたく技術士になった暁には、技術士としてパネリスト、そしてコーディネータ役として次回以降の本会へ参加し、皆さんの思いや経験をぜひ語ってみたい。

### 4. 今後の展開

私自身は、修習委員会への行事は初めての参加であった。修習技術者には若い参加者が多く、青年委員会ももう一歩踏み込んで協調していくことは重要であると感じた。交流会で話していると、皆、技術士会へ入会し、青年の行事にも参加してくれそうな勢いであった。しかし、一晩明けると冷静になってしまう人が多いのが世の常と推測され、できればもうひと押しして入会者を募るようなアクションがあればなおよいと思われる。

また、今回の反省と次回への課題は次のとおり。

- 1) 本会場は壇上が狭く、全員が横一列に並んでしまった。そのため、コーディネータからパネリストの顔が見えず、質疑の区切りなどの状況が見えづらかった。ディスカッションでは、あ、うんの呼吸が必要であり、壇上の配置は配慮した方がよい。
- 2) 交流会で感想を聞いて回ったときに、質問時間がもう少しあればよかったと言われた。実際は、約7分遅れで始まり、途中、予定より20分ほど遅れていたもののテーマ5を終えたのが17:30、質疑を含めると最終的に10分強程度の遅れであった。参加者からの質疑は2回行い、前半は3名、最後は2名、述べ15分程度は質疑時間を取ったと思うが、最後は強制終了的に閉会したので、指摘の通り少々残念な面もあった。
- 3) 同じく参加者からの感想で、本当はもっと試験について具体的に語ってほしかったという人もいた。私自身、本会はあくまで2次試験に向けてのガイダンスととらえ、突っ込んだ試験対策を語る場ではないと思っている。あまり突っ込むと専門分野の領域に入ってしまうため、パネリストには個人の思いを中心に語ってもらったつもりである。しかし、そのような考えの参加者もいるということで、次回の参考として頂きたい。
- 4) 全体の進行からすると、2時間の時間配分からして、テーマの数(5つ)とパネリスト5名は多いと思われる。今回は、技術士の2名に意図的に多くを語ってもらったが、せっかく壇上に上がってもらったので本来は他の人にももう少ししゃべってもらいたいところであった。テーマが5つあると内容が重なることも多く、3つ程度に集約できるであろう。また、パネリスト数はコンセプトにもよるので適正な数は難しいが、最大でも4名までではないかと思う。
- 5) 今回は、参加者へのテーマ表示(配布資料、垂れ幕、正面への表示等)がなかった。開始のあいさつで進行説明の時に口頭で紹介したが、配布資料には発表者の資料しかなく、この表紙に加えることや、会場でも何らかの方法で表示した方がよい。当然用意されるものと思っていたが、その考えが反省すべき点であり、次回は何らかの形で準備されることを提案する。

以上



行事名	2月例会：講演討論会「東日本大震災と福島原発から学ぶリスクマネジメント」
日時	2012 年 2 月 25 日(土) 13 時 30 分～17 時 30 分
場所	荳手第二ビル 5 階 A,B 会議室
講師、発表者	講師：中村昌允氏(東京農工大学教授、技術士(化学部門))
担当者： (○印：リーダー)	○武井、山中(記)、澤田石
参加者数	45名(内、委員11名)一般34名

### 1. 背景・目的

東京電力の福島第1原子力発電所事故は原子力関係者だけの問題ではなく、一人ひとりの科学技術者が、それぞれの立場でできることやすべきことを考えさせている。今回はこの東京電力の福島第1原子力発電所事故を題材にリスクマネジメント\*についての講演を聴講した後、参加者自身が「どこまで安全を求めるか」について考える。その後、グループ討議、全体討議を行うことで、リスクマネジメントについて理解を深めるとともに、様々な考え方を知る機会を提供する。

\*: 全てのリスクには対応できないことを前提に、リスクの大きさに応じて、優先順序を付けて、リスク低減策を実行すること

### 2. 例会内容

#### 2. 1. 講演会(13:30～15:00)

講演は事故から学ぶこととして、危機管理の課題や緊急事態の対応などについて地震発生後の東京電力の対応を示しながら説明するとともに、リスクに対する考え方や感性について、原発技術導入前後のリスクアセスメント、耐震バックチェックでの地震随件事象に対する考慮に対する安全評価の先送りなどを例にとりて解説をされた。また、リスクコミュニケーション、リスクに対する日本と海外との違いについても紹介され、幅広く、密度の濃い内容であった。

#### 2. 2. グループワーク(15:10～15:50)

講演後は各グループのメンバーで講演内容を踏まえた下記の2つの考え方(概略)について討議を行った。  
 A: 最悪の事態を想定すれば、コストは無限大となり、設計不可能。実施可能なレベルの設定が必要である。  
 B: 重大な事象が発生する恐れがある場合、対象物の代替の可否によって判断が変わる。  
 各グループは6～8人で構成された。このグループワークの目的はグループ内で意見をまとめることではなく、グループ内での話し合いを通して各自の意見を確認し、全体討議に臨む自分の考えをまとめることであった。ワークは事前学習や講演の内容をグループ内で確認すると共に、各人がA・Bに対する意見を述べ合い共有するというスタイルで進められた。

#### 2. 3. 全体討議・コメント(15:50～17:30)

参加者が挙手にてA、Bどちらを選択し、選択理由を述べ、それについて討議を行った。参加者の経験や知識、考え方、そして立場が様々であることから、多くの発言があり、これらを共有することが問題解決の理解を深めて行くよい手段であることが伺えた。

### 3. 成果と所感

- ・ 当日参加の申し込みを含め参加者は40名を越え関心の高さが伺える。参加者たちの討議も白熱し、交流会の場でも多くの議論が継続されていたことからよいテーマであったと思う。
- ・ グループ割の際、意図的に若手技術者のグループを作り、前方に配置した。若手技術者が自分自身の意見を発言する機会が増やすことにより、よい効果が生まれることが期待できると考える。
- ・ 最後の全体討議となると先輩技術者からの発言が多く、若手技術者からの発言はほとんどみられなかった。若手の企画ということで、あえて意見を述べなかったという先輩技術者の方もいたが、発言の機会を作る工夫があればよかったと感じる。

### 4. 今後の展開

- ・ 非常に多くの参加者があり、当日申し込みも4名いた。
- ・ 遠方から参加するには、移動時間<例会時間でないと難しいとの声があった。今後の企画の参考にしたい。

以上



中村昌允氏



講演会



グループワーク



全体討議①



全体討議②



講師を囲んで交流会



2012年2月例会 「東日本大震災と福島原発から学ぶリスクマネジメント」アンケート集計結果

参加層

(a) 30歳未満	3
(b) 30歳～34歳	3
(c) 35歳～39歳	2
(d) 40歳～44歳	3
(e) 45歳～49歳	3
(f) 50歳～	14

28

講師の話し方

(a) 満足	20
(b) ほぼ満足	10
(c) 普通	0
(d) やや不満	0
(e) 不満	0

30

講演資料

(a) 満足	15
(b) ほぼ満足	10
(c) 普通	5
(d) やや不満	0
(e) 不満	0

30

スタッフ対応

(a) 満足	10
(b) ほぼ満足	18
(c) 普通	2
(d) やや不満	0
(e) 不満	0

30

全体

(a) 満足	15
(b) ほぼ満足	13
(c) 普通	2
(d) やや不満	0
(e) 不満	0

30

会員層

(a) 技術士	21
(b) 技術士補	2
(c) 修習技術者	6
(d) JABEE認定プログラムの学生	0
(e) その他	0

29

参加経緯

	認知	判断
(a) 日本技術士会の同報メール	17	6
(b1) 技術士会/青年委員会のHP	9	10
(b2) その他のHP	0	0
(c) 青年委員会のブログ	1	0
(d) 月刊PEの行事予定	0	0
(e) 以前に参加した青年委員会の例会	0	1
(f1) 青年委員会のメンバーからの紹介	1	2
(f2) その他の人からの紹介	0	1
(g) その他	0	8

28

28

参加目的（複数回答有）

(a) テーマや内容に興味等	28
(b) 参加者への興味（人脈の拡大）	6
(c) 青年委員会への興味	4
(d) CPDのポイント取得	4
(e) 上記以外	0

参加部門（複数回答有）

機械	2
電気電子	3
化学	2
繊維	0
金属	1
建設	6
上下水道	2
衛生工学	1
農業	0

水産	0
経営工学	1
情報工学	5
応用理学	2
生物工学	0
環境	2
原子力・放射線	0
総合技術監理	0
その他	0

参加回数

(a) 初めて	17
(b) 2回目	2
(c) 3回目以上	10
(d) はっきりしない	1

30

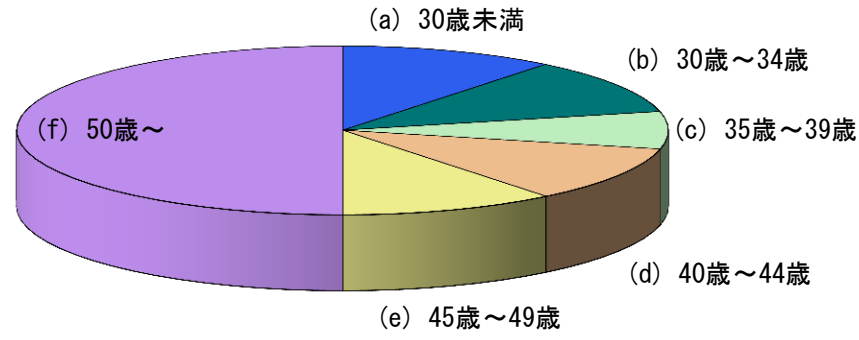
期待するイベント（複数回答有）

(a) 情報の提供	17
(b) 変化の提案	7
(c) 楽しみの場の提供	3
(d) 人脈形成の場の提供	8
(e) 上記以外	2

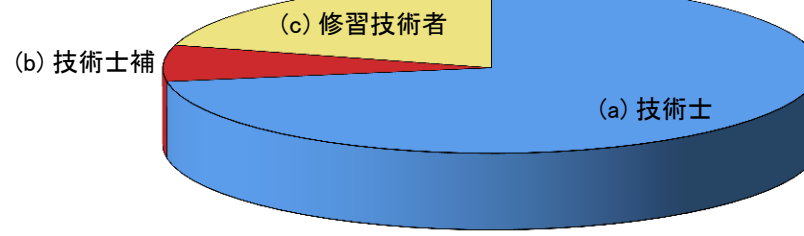
自己研鑽（複数回答有）

(a) 自身の向上	13
(b) 周囲の支援	4
(c) 周囲との連携	5
(d) その他の活動	3
(e) 特になし	2

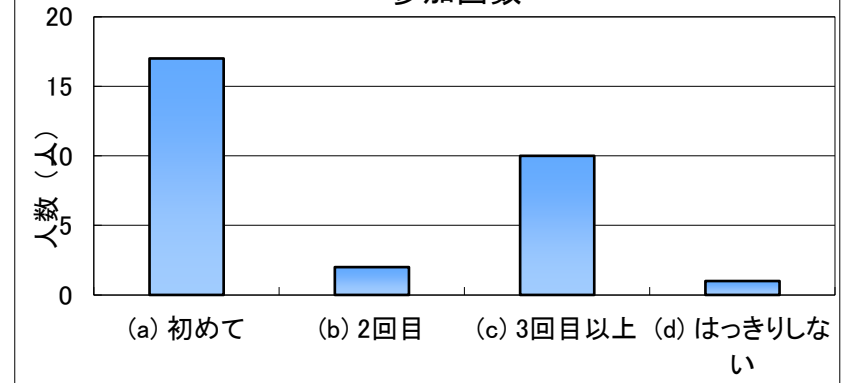
参加者層



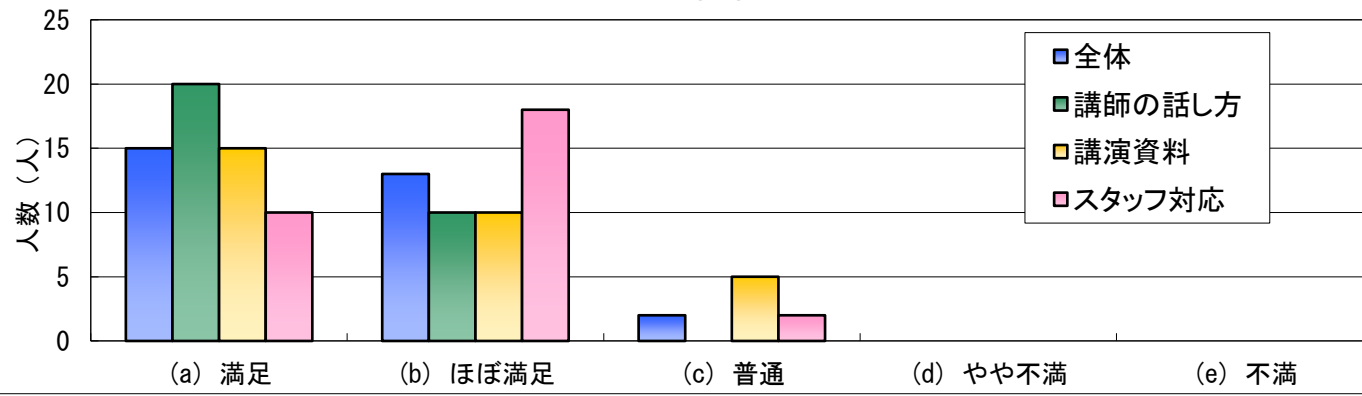
会員層



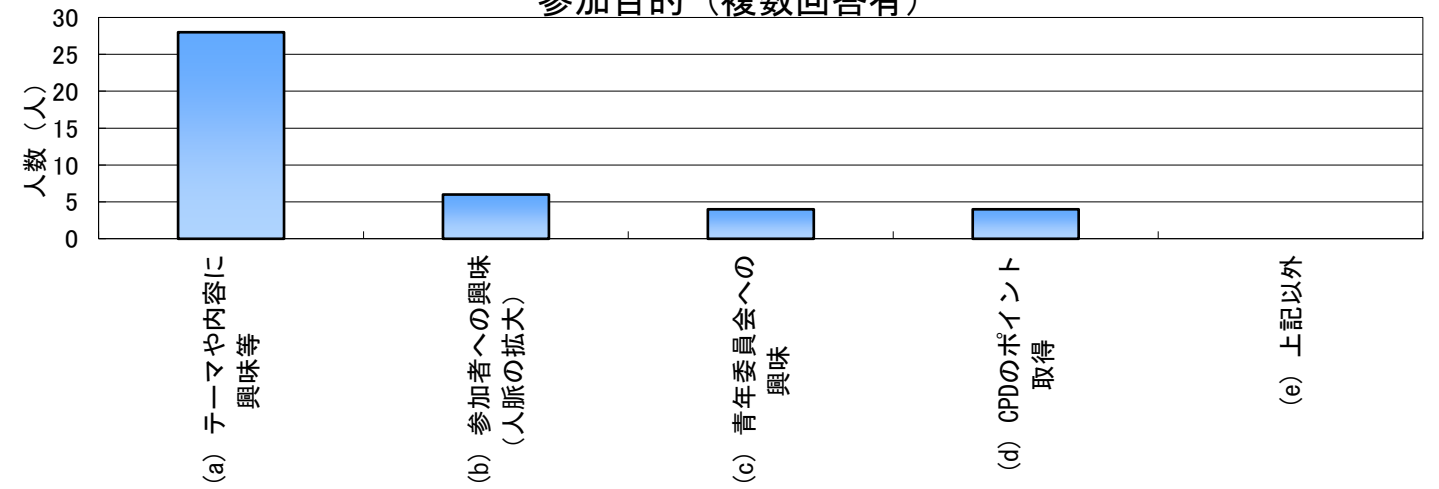
参加回数



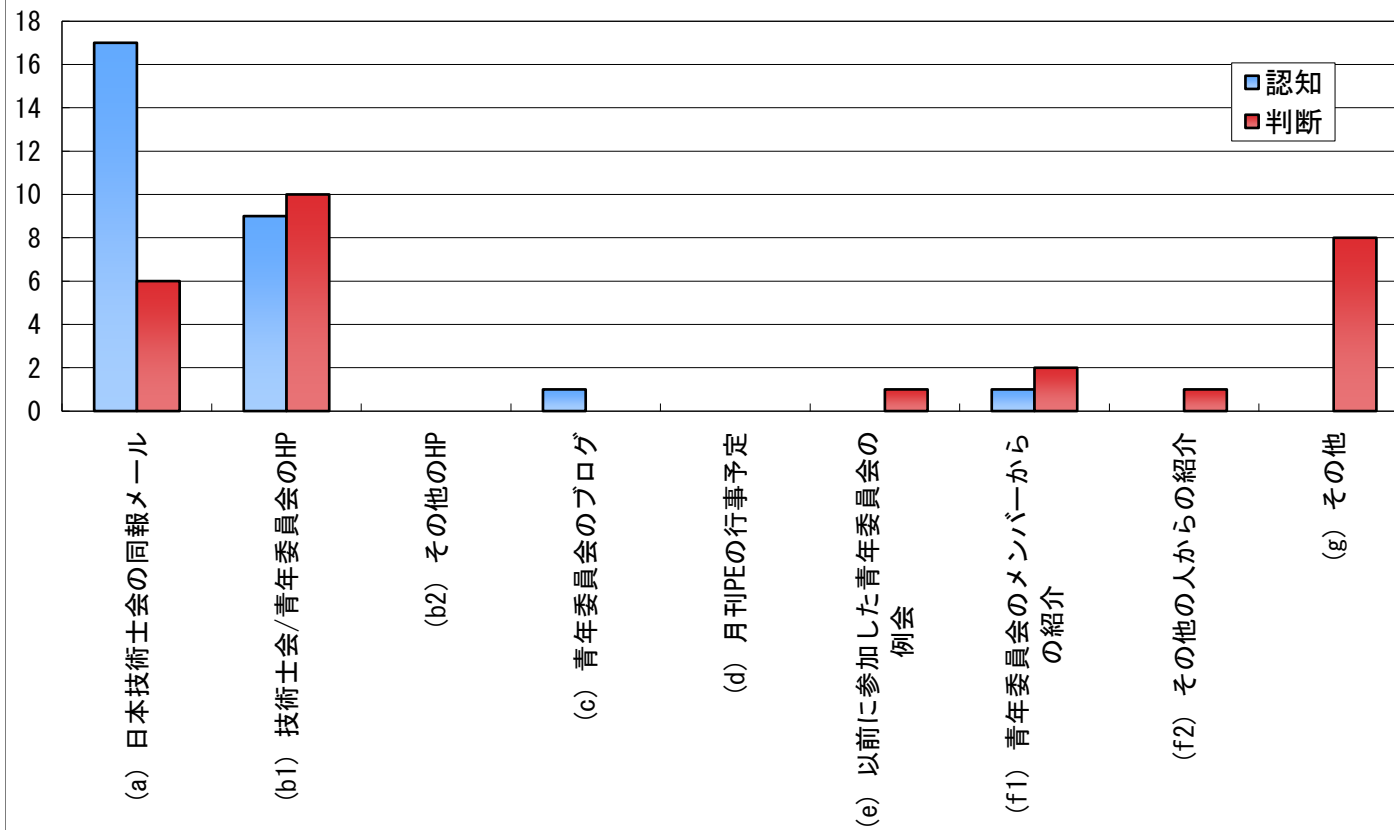
例会評価



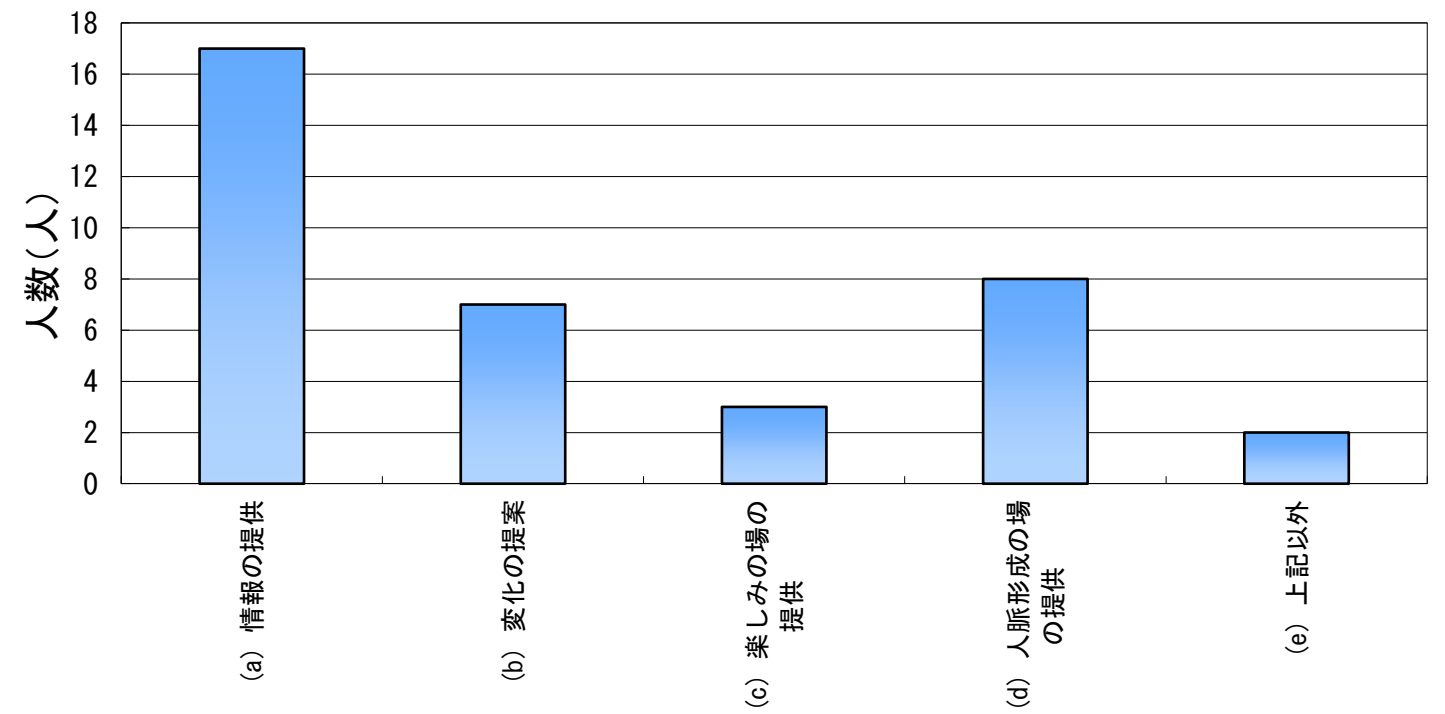
参加目的（複数回答有）



参加動機



期待するイベント（複数回答有）



## 伝えたいこと/コメント等

### 【講師へ】

- ・ わかりやすいご説明、勉強になりました。 (50歳以上 技術士)
- ・ 討論の進行の仕方についても勉強になりました。 (30歳前半 技術士)
- ・ グループワークをはじめ研鑽の場を提供いただきありがとうございました。  
(環境部門 技術士補)
- ・ これからの行動に生かしていきたいと思います。 (30歳後半 修習技術者)
- ・ 自分の今後の技術者としての考え方に反映できる講演内容でした。  
(40歳前半 技術士)
- ・ ライオンの現場技術者(工場)としてがんばります。技術者としての思想に感銘しました。 (30歳前半 修習技術者)
- ・ 非常に参考になりました。 (50歳以上 技術士)
- ・ 良いお話をありがとうございました。(50歳以上 技術士)

### 【スタッフへ】

- ・ ありがとうございました。 (環境部門 技術士補)
- ・ いろいろ企画してくださりありがとうございました。 (40歳前半 技術士)

### 【全体】

- ・ 技術士会非会員でも参加できるという部分で参加を決めた。  
もう少し若い人限定のイベントがありましたら参加したいと思います。  
お話の内容が難しかったです。いろんな意見が聞けたことは勉強になりましたが、それを理解できないのが残念であり、ついていけないなあと思いました。  
(30歳未満 修習技術者)



行事名	4月特別例会(一次・二次試験合格者歓迎会&青年技術士展2012)
日時	2012年4月28日
場所	葦手第二ビル日本技術士会会議室A, B, C, D
講師、発表者	○青年委員会紹介… 嶋田委員(副委員長)、葛西委員補佐(国際交流) ○部会紹介… 各部会部会長推薦者および青年委員会委員メンバー 水産: 村上部会長、機械: 立石部会長、電気電子: 片桐委員、金属: 山本委員、建設: 野村氏山室氏、上下水道: 嶋田委員、衛生工学: 横田委員、農業: 小西氏、経営工学: 鈴木委員、情報工学: 嶋田部会長、環境: 佐伯氏、原子力・放射線: 桑江部会長 修習委員会: 榎委員長
担当者: (○印: リーダ)	品田委員 松田委員補佐 葛西委員補佐 ○山本委員(記) 当日参加委員(17名)全員担当あり
参加者数	第一部: 青年委員会、部会説明、ディスカッション 合計86名(一般56名、部会14名、委員16名) 第二部: 交流会 合計80名(一般51名、部会13名、委員16名)

## 1. 背景・目的

これまで('09~'11)に引き続き、本年も1次2次合格者歓迎会および青年技術士展を実施した。目的として以下2点を掲げた。①今後の活動基盤となる技術士会で、自分の所属部門にとられない出会い(横のつながり)を得、先輩技術士からJABEE出身者にいたるまで世代を越えた縦のつながりを得る ②日本技術士会および、青年技術士の活動内容をより多くの方に理解いただく

## 2. 例会内容

本会は二部構成とし、第一部は日本技術士会の活動内容を理解いただく目的で、青年委員会の紹介(含む海外活動)と部会紹介を実施。続いて全員参加型のイベントとして、「青年委員会の交流」をテーマにしたグループディスカッションをおこなった。第二部は、参加者間で世代や部門を超えた縦と横のつながりを有機的におこなえるよう、立食パーティー形式の交流会をおこなった。概要を以下に示す。

### 第一部 13:30~17:30

#### 2.1 開会のあいさつ 青年委員会の紹介(嶋田副委員長) 13:30~13:40

日本技術士会の中での青年委員会の定義、構成、位置づけ、活動内容について一つ一つ丁寧に説明をされた。特に交流については「研鑽」「国際交流」「全国交流」の3本柱を中心に行われている点を図を用いてわかりやすく説明された。更に例会等の研鑽活動については、今回のディスカッションテーマである「交流」と結びつけて説明された。

#### 2.2 国際交流の紹介(葛西委員補佐) 13:40~13:45

続いて、葛西委員補佐が昨年度参加された①香港交流(2011.2) ②YEAFFO(2011.11)について報告があった。①②とも、現地での写真を用い臨場感あふれる説明をされた。

#### 2.3 各部会紹介(各部会部会長推薦者および青年委員会委員メンバー) 13:50~15:00

各部会代表の報告者が、各部会の特徴と年間実施内容を主に説明いただいた(参加部会は上記12部会+修習委員会)。報告方式はパワーポイントによるもので、持ち時間は各部会とも3分の説明後に2分の質疑形式をとった。

**結果:**それぞれの説明に対し、積極的にメモする参加者が多く、参加者各自が主体的に情報を収集しようとする姿勢が見て取れた。これは、1次合格者ガイダンス(1月)、事務局主催歓迎会(4月)とも立食パーティーの懇談中での部会説明であったため、実質聞こえていなかったためだと推定する。一方で部会紹介の3分間は、どの部会も時間が超過気味で、かつ質問者はいなかった。次回から説明時間を5分とし質問タイムは不要であると感じた。

#### 2.4 グループディスカッション 15:10~18:00

参加者をA~Fの6チーム(11人/チーム)に分け、「青年委員会の交流」に関するテーマについてディスカッションをおこなった。グループ分けは事前に部門、一次二次合格者比率、年齢層に偏りがないように実施した。各Grの実施内容とディスカッションの成果物については青年技術士HP参照。

**結果:**開始直後はディスカッションに慣れていない方も見受けられたが、時間が経つに従い内容が深まり、活発な話し合

いになっていった。各チームとも白熱した議論が続き、制限時間一杯まで議論が続いた。特に成果発表では各Gr毎のカラーをしっかりと出せ、個々の真剣な取り組み姿勢が強く感じられた(コーディネーターの力によるものと感じる)。また最後の成果発表では、予定していなかった各部会の代表者から貴重な御講評を頂けた。その成果があり、第二部はずいぶん盛り上がったように感じられた。

## 第二部:交流会(18:10~20:00)

開会あいさつ 武井委員長  
乾杯ご発声 山中副委員長  
閉会の挨拶 山本幹事長

### 3. 所感

- GW初日にも関わらず、一般参加者は56名であり、平均年齢も37歳と低い上に、資源工学、農業、森林、JABEE等の参加者も見られた。結果として会員の増大に貢献できるものと確信する。
- 会の活性化には、参加者側にいかに主体的な取り組みをさせるかが重要である。これについては受身(青年委員 & 部会紹介)→発信(ディスカッション+交流会)の会の流れで、雰囲気にも順応できたものと感じた。
- 「歓迎会」の名前から、主催者側から一方的にメッセージを伝える講義形式を想定した参加者もいたと思う。しかしあえて、ディスカッションのような双方向のはたらきかけをすることで、自分の立ち位置を認識していただく良い機会だったと考える。武井委員長の話にもあったが、この形式は既に「歓迎会」の 카테고리 から外れており、次年度からは「歓迎会」の冠を外す転換期だと感じた。
- 全体を通してみると、綿密な準備が会の成功を握ると感じた。逆に幹事職として事務的(機械的)作業と、創造的作業が混在していることに気付いた。今回については前者の比率がかなり高いため、これの是正については次年度の課題にしていく。
- 第二部の出席未確認者への最終チェックは手間がかかったが、一人一人にメール確認することで結果的に事前に名前がつながり、当日参加者への声掛け等がしやすかった。
- 参加者間の意思疎通には、当日の積極的なコミュニケーションが重要と考えるが、自ずと時間は限られている。これについては、参加者間で事前情報が共有化できれば当日の会は更に盛り上がるものとする(個人情報観点があるが)。事前に参加者間で顔が見えるようにするには? 今後委員間で議論していく。

### 4. その他

今回の結果より参加者のポテンシャルの高さを感じ取れた。今後は技術士会での活動を経験することでネットワークの有用性が理解いただけるものと信じる。今後技術士会のイベント等で再会した時は活動の中でバックアップしていく。

最後になりましたが、技術士会事務局並びに各部会のご支援とご協力により、トラブルなく終えることができ、また充実した内容になりましたことを深くお礼申し上げます。

以上



# 第 38 回技術士全国大会テクノツーリズム関連活動 実施報告 本編(案)

2011 年 9 月 22 日  
青年技術士交流実行委員会 D 班

## 目次

1. 本報告の目的 .....	1
2. テクノツーリズムの目標 .....	1
3. 本活動の実施計画 .....	1
4. 本活動の実施結果 .....	1
5. 本活動の評価 .....	2
6. 今後同様の活動を行う場合の改善点 .....	3

## 1. 本報告の目的

○本報告は、第 38 回技術士全国大会(以下、「本大会」)で開催するテクノツーリズム(以下、「本テクノツーリズム」)に関する準備活動、当日の活動、アフターフォロー(3 点合せて以下、「本活動」)の実施結果、その評価、及び改善点の抽出を目的とするものである。

## 2. テクノツーリズムの目標

○本テクノツーリズムは、本大会のテーマを参加者に体感させることを狙いとした。

・本大会のテーマ:「地球再生へのメッセージ」～世界・アジア・日本における技術士の役割～

○具体的には、地球再生に関連するトピックを学習・経験する活動を通じて、参加者に、以下の意識を深めてもらうことを目標とした。

・地球再生に向けて社会に何が必要か

・技術士等の技術に関する専門家はどのような役割を果たすべきか

・自分は何をすべきか など

○本大会開催地である東京の地域性を参加者に理解してもらう。

○技術士会会員以外の参加者にも効果をもたらせるものとした。

## 3. 本活動の実施計画

○「第 38 回技術士全国大会テクノツーリズム関連活動実施計画書 2011 年 8 月 18 日」(最終版。資料編添付)を参照。

## 4. 本活動の実施結果

○実施計画に定めた以下の実施項目に関する結果は、各々資料編に添付。

実施項目	実施結果	
	資料編掲載ページ	コメント
(1) 参加者公募・応募受付方法	<u>8</u>	
(2) 5 月例会の企画と広報	<u>9-10</u>	
(3) テーマ案設定	<u>11</u>	
(4) テーマ案評価	<u>12</u>	
(5) 「東京里海エイド」検討会開催	<u>13-14</u>	
(6) 及び(7) テーマ設定		テーマ案「b1 東京湾岸観察・活動会」を推薦し、決定。
(8) 訪問先との訪問条件の合意	<u>15</u>	
(9) 公募関連資料作成	<u>16-21</u>	公募期間は 2011/7/26~8/19
(10) 参加者公募、応募受付		<参加者> 本部委員 9 人 支部委員 8 人 技術士会会員 9 人 事務局 6 人 家族 10 人 講師 1 人 機材貸出 1 人 合計 44 人
(11) 当日計画書作成	<u>22-24</u>	
(12) 配布資料作成	<u>25-39</u>	
(13) 当日活動	<u>40-41</u>	当日計画の通り活動できた。
(14) 会計報告	<u>42</u>	
(15) 参加者フィードバック調査	<u>43</u>	次章参照。

## 5. 本活動の評価

### (1) 目標の到達具合

- a. 地球再生に関連するトピックを学習・経験する活動を通じて、参加者に、次の意識を深めてもらえたか？ →「地球再生に向けて社会に何が必要か」「技術士等の技術に関する専門家はどういう役割を果たすべきか」「自分は何をするべきか など」

○参加者 FB 調査の「Q5.活動を通じて得られたもの」、「Q6.漂着ゴミの改善や海岸の環境の改善に向けたアイデア」に対する自由回答(21人中16人から回答あり)のうち、以下については、本目標に到達できたことが直接確認できる。

Q5.活動を通じて得られたもの	Q6.漂着ゴミの改善や海岸の環境の改善に向けたアイデア
ゴミの多さにびっくりしました。	ゴミを出さない意識
かなり川から海へとゴミが流れでた。	
出したゴミの飛散防止も考えたい。	出したゴミの飛散防止も考えたい。
包装ゴミが環境に残留しやすいことを実感した。	海岸利用者によるゴミを減らすために、マナー向上が必要と感じた。
東京の海の現状を少しでも知る事が出来て良かった	
ゴミを出さない増やさないだけではなくリサイクルを考えて生活したい	
	簡易包装化、あるいは生物分解性素材を用いるなど
あまり自然が残っていないように見えても、生物がたくさんいて、思い込みを反省しました。	河川からの流入でゴミが来るので、河川に流れない工夫を呼びかける、など良いかも知れません
ゴミの多さ、生態系の多さに気が付いた。	
家庭ゴミが多い。電工業者の廃棄物と思われるものも有った。	家庭のゴミの出し方に注意が要る。電工業者の教育も必要
日常のゴミ捨てを検討するいき	個々人の意識の涵よう
自然はすばらしい、そう思うとゴミのみにくさに気がつく	企業ぐるみ、学生(中高大)などの必須にすると良いかも
今後、海や野山に遊びに行ったら、自然に対して遊ばせてもらったお礼に、拾えるゴミを拾いたい。	産廃に関しては排出ルートを各事業者で確認すること。一廃に関しては分流式下水道の普及促進と雨水路のゴミ流出状況を調査すること。

- b. 本大会開催地である東京の地域性を参加者に理解してもらえたか？

○参加者 FB 調査の「Q5.活動を通じて得られたもの」、「Q6.漂着ゴミの改善や海岸の環境の改善に向けたアイデア」に対する各自由回答(詳細は資料編参照)は、「ゴミが多い」「東京湾の生態系は実は多様」「清掃活動が行われている」などの東京の地域性を反映したものといえる。

○また、「東京の海の現状を少しでも知ることができた」という回答も見られることから、目標は概ね達成できたと考えられる。

- c. 技術士会会員以外の参加者にも効果をもたらしたか？

○今回の参加者のうち、技術士会会員の家族を除いては、会員以外の参加者はいなかった。その意味から、目標達成は不十分といえる。

○参加者 FB 調査の「Q9.本イベントの認知方法」の回答は、多い順に以下の通りである。

(a) 日本技術士会同報メールシステム(9人)

(f) 青年委員(補佐)からの情報(5人)

(b) 日本技術士会/青年委員会のHP(4人)

・一般向けイベント告知サイトである「ぷらぷら」や「るるぶ.com」を見て参加した人はいなかった。

○会員以外の参加者を募集する方法として、一般向けイベント告知サイトへ記事の投稿を実施したが、一般向けへの PR は図れなかったとみられる。

## (2) 本活動の PDCA

### a. 実施計画に定めた準備活動が行えたか？

○実施項目に沿った準備活動が行えた。

○活動状況等から見て変更すべき計画は、月 1 回のレビューの中で、概ね修正できた。

### b. 準備活動に遅延等の問題はなかったか？

○深刻な問題はなかった。

○5 月例会の準備・運営に時間がかかったため、テーマ案の情報収集作業が遅れ、テーマ選定に、当初想定していた程の時間がかけられなくなり、さらに、テーマ選定後の詳細な内容の詰めの作業等、他の作業のスケジュールも厳しくなった。

・5 月例会の準備・運営と、テーマ案の情報収集作業は、メンバー内での分担をさらに明確にするべきだった。

○電子ファイル共有のため skydrive を利用したが、一部のメンバーがログインできず、そのメンバーにだけファイルを別送するなど、ファイル共有に手間がかかった。

### c. 当日活動に遅延等の問題はなかったか？

○深刻な問題はなかった。

○各班からの発表と質疑の時間が、当初予定の 40 分に対し、20 分程度で済んだため、その後の活動の時間に余裕ができた。班活動 50 分は、あと 10~15 分長く設定できた。

### d. 準備活動、当日活動に費用面の問題(計画と実績の差異など)はなかったか？

○問題はなかった。

### e. リスクマネジメントはうまくいったか？

○実施計画 11.(2)で挙げたリスクのうち、「b.技術士以外の参加者がいない」は、会員以外の参加者がいないという点で、発現した(上記(1)c.の通り)。

○リスクの対応策(告知方法の工夫、十分な公募期間の確保)は講じたが、十分でなかった。

## (3) 参加者からの評価

### a. 上記「(1)目標の到達」に関する項目以外で参加者からの反応はどうだったか？

○満足度 5 段階評価で、参加者の評価点の平均値は以下の通りであり、概ね、よい評価を受けた。

・Q1.講師の話:4.5

・Q2.配布資料:4.5

・Q3.ご自身の班の活動:4.2

・Q4.他の班の発表:4.3

・Q7.事務局の準備:4.4

・Q8.本日の事務局の対応:4.4

## 6. 今後同様の活動を行う場合の改善点

### (1) 参加対象者の拡充に向けて

- 今回の参加者は、以前から技術士会を知っていたり、関連を持った活動をしている人達である。
- ちなみに、参加者 FB 調査の「Q9.本イベントの認知方法」に加え、「Q10.今回の参加理由」の回答は、多い順に以下の通りとなった。
  - (a) 日本技術士会/青年委員会のイベントに参加したかった(9人)
  - (b) イベントの内容に興味があった(4人)
  - (d) 青年委員(補佐)から誘われた(4人)
- また、参加者 FB 調査の「Q11.青年委員会のイベントへの参加度」の回答は、以下の通りであり、参加者が「初めて」とリピーター(4回以上)に大別できる。
  - (a) 初めて(10人)
  - (b) 2回目(3人)
  - (c) 3回目(1人)
  - (d) 4回以上(7人)
- 青年委員会は、技術士会会員の中に一定の「ファン」と「ファン候補」を持っている。ファン候補はファンに変え、ファンとは関係を継続することにより、今後の青年交流が更に発展することは疑いない。
- 一方、潜在的な会員候補である各界の若手技術者、及び将来の会員候補である学生などに対して、今後、どのようにアプローチするかが、本活動によって明確になった課題である。
- 例会等のイベントに合わせた集客に対して、ブログや facebook の活用(ファンを通じた口コミの拡散など)、外部セミナー・研究会への参加等、潜在的会員候補と日常的な接触を増加する活動も含めて、外部に対する「営業活動」を体系的にリバイスすることが、一つの方向性といえる。
- ・青年委員会に対する認知が進めば、技術士会会員以外からのイベント参加者も自然と増えることが見込まれる。

## (2) 今後の例会企画に対しての示唆

- 今後参加したいイベントとしては、見学会やビジネススキルのテーマに人気がある。
- ・参加者 FB 調査「Q12.」への回答の多い順→(e)見学会:12人、(c)ビジネススキル:9人、(a)国際交流:6人、(f)家族で参加できる講演会や体験学習:6人
- イベント・例会を開催する時間帯は、土曜にニーズが集中している。
- ・参加者 FB 調査の「Q13.」の回答の多い順→土曜午後:9人、土曜午前:7人、平日夜・土曜夜 4人
- イベントの企画上重視すべきは、テーマと開催時間帯である。
- ・参加者 FB 調査「Q14.」への回答を(重視する順 1位:5点、2位 4点・・・)と変換し、平均点の高い順にした重視項目→(b)テーマ/内容:4.6、(c)開催時間帯:3.5、(a)講師:2.3、(d)グループ活動:2.3、(e)懇親会の有無 2.1

## (3) 準備活動の円滑化に向けて

- 今回の準備活動では、5月例会の準備・運営と、テーマ案の情報収集作業を、メンバー内でさらに分担すべきだったが、イベントの準備活動では、並行作業が頻繁に発生するので、準備グループ内での役割分担を進めるとともに、「この人しかできない」状態はなるべく回避したい。
- ・そのためには、グループ立上げ時の意識合せと日常的な情報共有がポイントといえる。

以上

行事名	<b>北陸支部との合同テクノツーリズム「港湾工事の作業船舶」</b>
日時	平成 23 年 9 月 11 日(日)
場所	技術士センタービル/新潟東港
講師、発表者	(株)本間組 天尾 栄太氏
担当者: (○印:リーダー)	○山中、藤井(記)
参加者数	16名

## 1. 背景・目的

技術士センタービル I で「港湾工事の作業船舶」について理解を深めた後、新潟東港にて実物のケーソン製作用台船(フローティングドック)と浚渫船を見学した。

## 2. 例会内容

### 2. 1 講演会 テーマ「港湾工事の作業船舶」(株)本間組 天尾 栄太氏

港湾工事の作業船舶について、2 つの港区から構成されている新潟港の歴史的背景の説明から始まり、波を防ぐ防波堤や船を係留するための岸壁として使用される鉄筋コンクリートで作った箱(ケーソン)についてご説明いただいた。さらに、ケーソンを製作する製作用台船であるフォローティングドックや施設整備として、岸壁前の砂を掘る浚渫船の構造についての説明があり、大変興味深い内容であった。

- ・ ケーソン:「フランス語で大きな箱」  
鉄筋コンクリートで作った箱で、波を防ぐ防波堤や船を係留するための岸壁として使用する。摩擦増大マットを敷設し、海中でもケーソンが動かないようにしている。
- ・ ケーソン製作用台船(フローティングドック 通称:FD)  
船内の水槽に水を出し入れできるポンプ装置を備え、自在に船体を浮かべたり、沈めたりできる構造の船。
- ・ 浚渫船(ポンプ浚渫船)  
浚渫するためのカッターは、回転して土砂を掘削する。掘削した土砂は、浚渫船のポンプの力を使い、ラダーと言う管を通して、排砂管から排砂する仕組み。

### 2. 1. 1 質疑応答

<Q&A>

Q: 浚渫船では、掘った深さをどのように確認しているのか?

A: 浚渫船では、音波で確認しながら掘削深度を確認している。

### 2. 3 現地見学会(新潟東港)

- ・ケーソン製作用台船(フローティングドック)
- ・ポンプ浚渫船

本州日本海側最大のコンテナターミナルを擁している新潟東港にて、製作中のケーソンを乗せたフォローティングドックを船内から見学することができた。ポンプ浚渫船においても、浚渫するカッターを間近で見学できるなど、普段見学できない船の構造について学ぶよい機会になった。

## 3. 成果と所感

- ・ 港湾工事の作業について初めてその詳細を知り、特に特殊な船であるフォローティングドックやポンプ浚渫船を間近で見学できたことで防波堤などがどのように築造されているのかが理解できた。
- ・ ケーソン製作は、フローティングドック上で行い、完成後にフローティングドック自体をある一定水位まで沈める。喫水まで沈んだケーソンは、浮力を持つことになるため、浮かべたケーソンのみを別の船で移動させるなど、港湾工事の意外な方法に驚かされた。

## 4. 今後の展開

サッカー交流とテクノツーリズムを併せて開催することによって、サッカー交流に初めて参加していただいた若手技術者が、引き続きテクノツーリズムを通して、技術士との交流やテクノツーリズムによる技術理解を深める良い機会になっている。今後も、サッカー交流とテクノツーリズムを併せた開催を行うことで、若手技術者と技術士との良い交流の場になることを期待している。

行事名	テクノツーリズム
日時	平成23年12月18日(日) 9:30 ~ 11:30
場所	千葉市生涯学習センター 1研修室
担当者: (○印:リーダー)	○藤井 佳直(記)、山中 淳至、武井 遼、佐藤 泰秀
参加者数	30名(男性22名、女性3名、子供5名)

## 1. 背景・目的

「フットサル愛好会(2007年12月)」が中心となり、サッカーを通じた交流の輪を広げてきた。今回、2011年9月10、11日サッカー合同練習会及びテクノツーリズムに引き続き、同年10月開催された日韓サッカー大会の慰労会も兼ねて、北陸本部とのサッカー合同練習会及びテクノツーリズム@千葉という内容で開催した。本紙では、テクノツーリズムについて報告する。

## 2. 内容

(企画段階について)

北陸本部との合同練習会において、初めての千葉開催であり、千葉県在住の佐藤氏とともに企画を推進した。

開催場所は、サッカー会場の市原市に近く、北陸本部の利便性等を勘案し千葉市とした。

また、会場は、パソコン及びプロジェクターを使用した発表・講義が可能な装備力を有し、かつ使用料金が比較的廉価(今回支払費用5,410円)な公的施設とし探索し、千葉市生涯学習センター(千葉市図書館内)を選定した。

そして、テーマはコミュニケーション能力の重要性に着目し、テーマ名を「コンサルティングにも役立つコーチング手法について」とした。講師は、認定コーチを取得している田中建夫氏(技術士-機械部門・総合技術監理部門)と中学生のサッカー指導でコーチング手法を適用している佐藤泰秀氏(技術士-機械部門)へ依頼した。コーチング手法に関するテーマが初めてということもあり、理論と実践の両面に触れられる会を目指した。

(研修状況について)

最初に佐藤氏から、傾聴スキル・質問スキル・承認スキルの適用具体例について約30分間の発表があった。その後田中氏からコーチングスキル全般についての説明とコミュニケーションに焦点を当てた傾聴スキルについて詳細説明があり、良い聴き方と悪い聴き方の説明の後、出席者が参加した聴き方トレーニングが行われた。そのテーマが「現在の自分におけるサッカープレーの課題」であったこともあり、話し手も話しやすかったことと考えられる。受講者参加型の研修であったこともよかった点であり、田中氏の90分間は短く感じた。今回、研修時間が二時間と短く、傾聴スキルのトレーニングしか体験できなかったが、質問スキルなどもトレーニングする時間が確保できれば、より良かったのではないかと考える。

## 3. 成果と所感

- ・ 北陸本部との合同サッカー練習会+テクノツーリズムの企画パターンが定着しつつある。テクノツーリズムでは、若手に対し、発表の場の提供や出席者参加型のテーマが適しているのではないかと感じられた。サッカーのみならず、プラスアルファの企画により、交流がさらに広がり、深まるものと考えられる。
- ・ コミュニケーションツールとしてのコーチングスキルと捉えれば、色々な立場の人、種々の場面で応用できそうなテーマであり、参加者を飽きさせず、かつ参加者の満足度も向上させることができるテーマかも知れない。
- ・ 生涯学習センターの施設は、比較的新しく、開放感もあった。千葉駅から徒歩圏内で、駐車場もありよかった。
- ・ 昼食会では、ざっくばらんな会話から研修での質疑をしている若手技術者と講師との交流が見られた。

## 4. 今後の展開

- ・ サッカー練習会とテクノツーリズムの両者をセットにした企画は、交流を深める機会として適していると考えられ継続して行きたいと考える。
- ・ その一方で、テクノツーリズムの内容を充実させすぎると、特にサッカー練習会の参加者が疲弊してしまうことが懸念されるため、テーマ、内容、時間については企画段階で注意を払い、バランス調整を行うべきと考える。
- ・ サッカー練習会とテクノツーリズムのセット企画が、若者同士、世代間、異業種間等々の交流の場として、非常に有効に機能している状況であると考えられ、次回の新潟開催(予定)をサポートし、実績を積み重ねていきたい。

以上

行事名	種類、製法、歴史からみる日本酒の新たな楽しみ方(テクノツーリズム)
日時	2012年3月17日(土)11時30分～16時30分
場所	技術士センタービル8階A会議室、朱鷺メッセ(ともに新潟市内)
講師、発表者	岡野 康弘(新潟工科専門学校、技術士:生物工学部門) 和田 幸永(株式会社キタック)
担当者: (○印:リーダー)	北陸本部:○佐藤一博、和田幸永 統括本部:山中淳至、藤井佳直、昆野哲也(記)
参加者数	29名(北陸本部:21名、統括本部:8名)

## 1. 背景・目的

テクノツーリズムの「地域性を生かした伝統産業の紹介」という趣旨に相応しく、酒処である新潟にて、日本酒をテーマとした講義および実地見学を行った。本企画は北陸本部が昨年に計画していたものの、東日本大震災により延期になったため、企画から運営に至るまで、改めて北陸本部にて練りなおされたものである。今回は新潟での開催にも関わらず、関東からの10名の参加者もあり、盛況の内に終了した。

## 2. 活動内容

<11:30～13:00 技術士センタービルにて講義>

- ・「清酒とはどんなお酒か」新潟工科専門学校 岡野康弘先生(技術士:生物工学部門)  
～概要～ 農耕と酒造について、清酒(日本酒)の醸造過程、日本酒の消費動向や日本酒造りの将来
- ・「利き酒に学ぶ日本酒の新たな楽しみ方」株式会社キタック 和田幸永委員補佐(北陸本部)  
～概要～ 利き酒の手順と方法、コンサルティング手法、お酒の味の表現、3種類の利き酒(実践)

<14:00～16:30 船にて朱鷺メッセに移動後「にいがた酒の陣 2012」に参加>

参加者は酒の陣会場にてお酒を試飲して回り、分析をする。時間終了後、気に入ったお酒を紹介し、選んだ理由を述べた。また、味、芳香などを表現してもらい、お互いに所見を述べ合った。

<18:00～ 交流会>

参加者らで交流会を実施した。

## 3. 成果と所感

<講義について>

岡野先生より、醸造全般について明快な解説を頂いた。一麴、二もと、三醪といった工程数(手間)の多さを理解できたとともに、温度管理の難しさや、他の酒類(ビールやワイン)との違いについてなど、新しく得る知識も多かった。講義を通じて、自身の日本酒に対する評価を改めずにはいられなかった。

和田氏の講義は、酒の陣直前にあって、大いに役に立った。お酒をどう分類し、分析を行うか。また、それらの違いをどう表現するか。一つ一つのお酒を比較し、違いを当てることも難しいが、それを伝えることは更に難しいようだ。

<にいがた酒の陣について>

新潟県内から90の蔵元が集まった。すべて飲むことは出来なかったが、どの蔵元も、イベントに備えて良質なお酒を用意しているようだった。単品で楽しむか料理と合わせたいか、辛口か甘口か、コクがあるか爽やかかなど、好みの違いは比べやすい。しかし、同系統のコンセプトを持つお酒は、違いを当てることが非常に困難で、一番を決めることは難しかった。そうした理由もあってか、参加者は最終的に同じお酒を選ぶことは少なかったように思う。

全体として人数が多く、遠方から集まる参加者もかなりいて、イベントは大成功であった。参加者が大いに楽しんでいた点は何よりである。しかし、お酒の影響で、研鑽課題への関心が薄れてしまう部分もあり、その部分に難しさも感じた。

## 4. 今後の展開

酒の陣は毎年開催されている。テクノツーリズムという形を取るかは別として、今後も北陸本部との交流を深める、恒例の企画として発展していけそうである。サッカーによる交流とも合わせて、委員らが直接合う機会となれば、東京本部と北陸本部とで良い連携が生まれるのではと期待したい。

—以上—

【記:昆野 哲也】



行事名	フットサル練習会
日時	平成23年7月31日(日)
場所	横浜みなとみらいスポーツパーク
担当者: (○印:リーダー)	○山中 淳至、山崎 浩司、藤井 佳直
参加者数	18名

### 1. 背景・目的

2008年新潟で開催される日韓親善サッカー大会での勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会(2007年12月)」では、参加メンバーを増やしながらかサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。今回、より継続性を高めることができるように青年委員会サッカーチームとしてフットサル場に登録した横浜みなとみらいスポーツパークにて練習会を開催した。

### 2. 内容

週末のフットサル場の確保が難しくなっており、経済性の観点からもチーム登録を行うことをチームで決定した。今回、会場の状態、交通の便なども踏まえて登録したフットサル場(みなとみらい)で初めてフットサル練習会を実施した。

当日は雨の心配はあったが、曇り空で涼しく、フットサルには非常によい気候であった。今回も新規参加者が3名おり、参加人数が徐々に増えてきている。

練習会は3チームに分かれ短い時間で次々と試合をこなしていく方法で行った。今回は全体休憩もなく、ひたすら試合をしていたせいか、後半足が止まったかたが何名かいたが、怪我もなく、無事終えることができた。

今回の MVP は、全てにおいて質の高いプレーをされていた和田啓太さんと同じチームで和田さんのプレーをサポートしていた伊藤晴夫さんが選ばれた。

グラウンドも整備が行き届いたよいコートが6面あり、登録したことによって、従来よりも早く予約ができることから、今後は定期的開催したいと考えている。

### 3. 成果と所感

- ・ 今回も新規参加者があった。大学サッカー経験者もおり、だんだんとレベルが上がってきたので、毎回の練習会が楽しみである。
- ・ 潮風香るみなとみらいのフットサルコートで、気持ちよく練習会ができた。新規参加者によって、サッカーのレベルも上がり、異業種交流の幅も広げられる練習会となった。
- ・ 参加者は東京だけでなく、関東各地から集まってくるため、横浜を練習拠点とするのは交通の便が非常に良く、参加しやすい環境になると思われる。

### 4. 今後の展開

- ・ 今までは3ヶ月に1度程度の練習頻度であったが、練習場をチーム登録したことで2ヶ月に1度程度に練習頻度を上げてほしいと思う。
- ・ 日韓親善サッカー大会では、サッカーの技術とチームワーク、そして最も重要である体力が必要になる。今後も、フットサルで技術のレベルアップを図るとともに、後半足が止まるという体力に課題があるチームのため、フルコートでのサッカーで体力を維持できるようにしていきたい。
- ・ 次の北陸(新潟)とのサッカー合同練習では、関東と北陸のチームワークの向上とサッカーレベルの向上を目指し、日韓親善サッカー大会への士気を高める。

以上

行事名	北陸支部とのサッカー合同練習会&親睦会
日時	平成23年9月10日(土)
場所	グランセナ新潟サッカースタジアム、親睦会:新潟朱鷺メッセ「SERENA」
講師、発表者	
担当者: (○印:リーダー)	○山中、江川、山崎(記)
参加者数	34名(内 関東13名、北陸21名)

## 1. 背景・目的

10月に行われる日韓技術士親善サッカー大会に向けて、日本チームの強化を図ることを目的に、北陸本部との合同練習会を実施した。

## 2. 内容

### 2.1. サッカー合同練習会

場所は、グランセナ新潟サッカースタジアムで行った。関東から13名、北陸支部から21名が参加し、人工芝の設備も整ったグラウンドで充実した練習が行えた。新潟や北関東でのサッカーは今回で6回を数えるが、関東からの参加者は今回はじめて11名以上となった。

練習会開始直後はグラウンドが蒸し暑く、熱中症も心配されたが後半は曇も出ていくぶん暑さがやわらいだため、最後まで体調を悪くする者もなく練習を終えることができた。

試合内容は、前半は関東の松岡さん、佐藤(泰)さんの得点などで関東チームの方が優勢であったが、後半になるにつれ北陸支部の江川さんの得点などで北陸支部が盛り返して白熱の試合展開となった。最後はテグ組とそれ以外のチームとに分かれて壮行試合を行い、結果は1対1で引き分けとなった。短い時間であったが内容の濃い練習会であった。

練習後にグラウンド近くにある緒立温泉に行き、汗を流した。地元の年配の方たちが大勢来場しており、浴場もそれほど大きくなかったため大変混雑していたが、試合後の疲れた体を癒すことができた。

### 2.2. 懇親会(新潟朱鷺メッセ「SERENA」、蠡や(せんや))

懇親会は新潟朱鷺メッセの「SERENA」で行われた。ビュッフェ形式の食事、料理も美味しく、北陸支部のメンバーともだいぶ懇親が図れたと思う。

2次会は新潟駅近くの料亭「蠡や」で行われた。とても風情のあるお店で、料理も新潟ならではの刺身、焼魚、お酒などを堪能した。ここでは本部、北陸支部ともさらに交流を深められ、特に幹事の北陸支部の小川さんの心遣いによるところが大きいと感じた。

## 3. 成果と所感

- ・ 日韓技術士親善サッカー大会前の最後の合同練習でもあり、非常にいい練習ができたと思う。
- ・ 体力的に本番で1試合通して走りきれだけの体力が不足している感じも否めなかった。
- ・ 北陸支部の方は普段から定期的に練習会を行っており、体力的には関東チームを上回っていた。
- ・ 最後のテグメンバーによる壮行試合では本番のイメージもできたので、今回の練習の成果が出せればいいと思う。

## 4. 今後の展開

- ・ 次回12月は北陸支部を招待して千葉での合同練習会を企画しており、次回は日韓大会の祝勝会(?)も兼ねて関東でいい練習会ができればと思う。
- ・ 今回もテクノツーリズムのみの参加者もいたように、サッカーだけでなく技術士としての資質の向上も図れるような内容にした方がより多くの参加者が得られると思う。

行事名	フットサル練習会
日時	平成23年12月17日(土)
場所	市原スポレクパーク
担当者: (○印:リーダー)	○山中 淳至、佐藤 泰秀、藤井 佳直(記)
参加者数	28名(北陸:14名、関東:14名)

## 1. 背景・目的

「フットサル愛好会(2007年12月)」が中心となり、サッカーを通じた交流の輪を広げてきた。今回、2011年9月10、11日サッカー合同練習会及びテクノツーリズムに引き続き、同年10月開催された日韓サッカー大会の慰労会も兼ねて、北陸本部とのサッカー合同練習会及びテクノツーリズム@千葉という内容で開催した。

本誌では、サッカー合同練習会について報告する。

## 2. 内容

### 2.1 北陸本部青年技術士委員会とのサッカー合同練習会

北陸本部青年技術士委員会とのサッカー合同練習会の会場は、千葉県市原市の市原スポレクパークで行った。

練習会場の市原スポレクパークは、グラウンド整備が整った天然芝のフルサッカーコートがある会場で、サッカーをするには申し分のない会場である。そのため、予約がなかなか取れない状況であったものの、佐藤氏のおかげで今回の練習会場とすることができた。

当日は快晴であったため、冬の練習会にもかかわらず暖かい気温の中で練習会を始めることができた。季節が冬ということもあり、日没までの限られた時間の中ではあったものの、北陸と関東の2チームに分かれて全員満足いくまでサッカーを楽しみ、交流を深めることができた。時間がたつにつれ気温が下がり、疲労とともに足をつる人も何人かいたが、無事怪我もなく練習会を終えることができた。

今回の MVP は、すばらしいゴールを見せてくれた佐藤友亮さん(今回初参加)と献身的な動きでチームを支えた大塚直吉さん(北陸)が選ばれた。今回の MVP に満足せず今後の活躍も期待したい。

## 3. 成果と所感

- ・ 天然芝でのフルコートで、気持ちよく練習会ができた。サッカー経験者である若手参加者も増えつつあり、交流の幅も広く、サッカーのレベルも高くなってきている練習会となった。

## 4. 今後の展開

- ・ 2010年度、2011年度と日韓親善サッカー大会では、連勝続きの日本チームであった。2012年度は、ホームでの試合のため是非3連勝できるようにしていきたい。今後の課題としては、今までの試合ではほとんどがセットプレーでの得点であるため、セットプレー以外の連携からの得点を目指したい。連携強化として、サッカー参加者との交流を深めていきたい。

以上

行事名	フットサル練習会
日時	平成 24 年 2 月 11 日(土)
場所	横浜みなとみらいスポーツパーク
担当者: (○印:リーダー)	○山中 淳至、山崎 浩司、藤井 佳直
参加者数	17名

### 1. 背景・目的

2008 年新潟で開催される日韓親善サッカー大会での勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会（2007 年 12 月）」では、参加メンバーを増やしながらかサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。

今回は 3 月に行われる新潟本部との合同練習会を前に、本部フットサルメンバーの技術向上および体力増強を目指して行われた。

### 2. 内容

当日は、曇り空であったが、それほど風も強くなく、フットサルにはよい気候であった。今回も新規参加者が4名おり、参加人数も前回 8 月の練習会の時と同程度の人数であった。

練習会は A、B、C と 3 チームに分かれ短い時間で次々と試合をこなしていく方式で行った。今回は 1 試合を 5 分間とし、3 チームがローテーションで休憩をとる形式をとったため、実際には 10 分プレーをしたら 5 分間休むという形となった。結果的にはどのチームも 12 試合を戦いぬき、結構ハードな内容だったが、怪我人もなく、無事終えることができた。

今回の MVP は、得点を量産した山崎さんと見事なファインセーブを連発した B チームの高橋さんが選ばれた。

### 3. 成果と所感

- ・ 今回も新規参加者が4名あった。内2名は先月の合格者歓迎会(修習主催)に勧誘した方で、直接話すことが参加への動機付けに非常に有効であることが分かる。今後も継続的な参加を望むと共に、他の例会への出席も期待したい。
- ・ 季節的にも気温が低いためか、8月の練習会の時よりもみんなの動きが良かった。
- ・ 試合時間を5分間とすこし短めにしたせいも、後半になっても中だるみすることなく、密度の濃い練習内容となった。

### 4. 今後の展開

- ・ 前回、数人の方から提案のあった試合形式以外の基礎練習については今回もほとんど行われなかったため、次回は少し検討するつもりである。
- ・ 新潟支部との合同練習会の後に、反省会も兼ねてなるべく早い時期の練習会を計画している。
- ・ 引き続き、新しいメンバー獲得のための勧誘をおこなっていきたい。

以上

行事名	サッカー合同練習(新潟)
日時	平成24年3月18日(日)
場所	亀田フットサルクラブエフスリー
担当者: (○印:リーダー)	○山中 淳至、藤井 佳直(記)
参加者数	31名(北陸本部:20名、統括本部:11名)

### 1. 背景・目的

2012年度の日韓親善サッカー大会に向けて3年連続で勝ちを獲得できるように、2012年初の北陸本部とのサッカー合同練習会を新潟で開催した。

### 2. 内容

北陸本部青年技術士委員会とのサッカー合同練習会を、新潟市江南区の亀田フットサルクラブエフスリーで行った。練習会場の亀田フットサルクラブエフスリーは、屋根のある屋外のフットサルコートで、当日はあいにくの雨であったが十分にフットサルを楽しめることができた。参加者は北陸本部、統括本部の他に北陸本部と交流のある新潟大学の学生も参加した。

冬の練習会のため寒さによる怪我などが心配されたが、北陸本部チームの江川キャプテンの下、統括本部と北陸本部が一緒になってリフティングゲームを行ったことで固まった体と心をほぐすことができた。

実践練習では、北陸本部チーム A、B と統括本部チーム、北陸・統括合同チーム、新大チームに分かれてリーグ戦を行った。リーグ戦では、攻守にわたる活躍が目立った関東チームが優勝したものの、その後、リーグ戦の成績からトーナメント戦を行うとホームで負けられないという気持ちが勝った北陸 B チームが1位を獲得した。MVP はリーグ戦での得点王(3点)の2名が選ばれた。約4時間を越える練習会ではあったが、緊迫した試合が多く、非常に楽しく、充実した練習会となった。

### 3. 成果と所感

- ・ 今回の練習会はテクノツーリズム、懇親会の翌日に行われたこともあってか、新しく参加された方も孤立することなく、コミュニケーションをとって練習会を行うことができた。チームとしても技術レベルが確実に上達しており、ボールを追いかけるだけのフットサルから、考えてコミュニケーションをとるフットサルに変わりつつあるように感じられた。
- ・ 技術レベルの向上が印象的だった関東本部チームと絶対に負けたくないという気持ちの強さが印象的だった北陸本部チームのそれぞれの個性を見ることができた練習会となった。
- ・ 本部チームは2月にも横浜でフットサル練習会をやっており、練習の成果が出たのではないかと思う。
- ・ 4時間近く時間がとれると内容も濃い練習ができとても良かった。

### 4. 今後の展開

- ・ 関東チームは、何度か練習会に参加されている人でチームを組んでいたため、連携がスムーズに取れていたが、本番では即席のチームになりえるため、ある程度ポジションを意識してチーム編成をするなど考えていきたい。
- ・ 2012年度の日韓親善サッカー大会に向けて、関東本部では5月に練習会を実施する予定である。少なくとも3ヶ月に1回は活動できるようにしていきたいと考える。
- ・ 北陸本部の活動は幅広く、大学生や他のサッカーチームとの付き合いもある。統括本部も新たなメンバーを増やすと共に、他のチームとも交流できるように働きかけたい。
- ・ **本活動は有志で活動していることもあり、メンバーを増やすことは難しいが、それ以上の魅力が見出せるような活動を心がけたい。**
- ・ 日韓親善サッカー大会前の8月に、再度北陸本部と合同練習を実施する予定である。

以上

行事名	フットサル練習会
日時	平成24年5月12日(土)16時00分～18時00分
場所	横浜みなとみらいスポーツパーク
担当者: (○印:リーダー)	○山中 淳至、山崎 浩司、藤井 佳直
参加者数	24名

### 1. 背景・目的

2008年新潟で開催される日韓親善サッカー大会での勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会(2007年12月)」では、参加メンバーを増やしながらサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。今回は8月に行われる新潟本部との合同練習会を前に、本部フットサルメンバーの技術向上を目的とした定例の練習会を実施した。

### 2. 内容

当日は、晴天であり若干気温が高かったが、開始時間が16時からということもあり、フットサルにはよい気候であった。今回の新規参加者は4名、また途中から参加者のご家族もゲームに参加した。

今回は従来の練習会のようにチームに分かれすぐに終了時間までゲームを続けていく形式ではなく、最初の30分をかねてから要望のあった基礎練習(パス交換、シュート練習)にあて、その後3チームに分かれたゲームを行う形式とした。慣れない練習と30分間休み無く続けたためか、練習で疲れてしまった人もいたが、怪我人も出ることなく、充実した練習を行うことができた。今回のMVPは、攻守共に献身的に動いていた伊藤さんが選ばれた。

練習終了後は参加者のほぼ全員が横浜駅に移動し、交流会を行い、今日の練習の反省や日韓サッカーについて話あった。

### 3. 成果と所感

- ・ 今回、はじめて基礎練習を行った。このような練習をしたことがない参加者の方が多かったのもう少し丁寧に指導していきたい。
- ・ 長く一緒にプレーしているメンバーはかなりお互いのプレーを分かった上でゲームをしていることが感じられ、徐々に連携が取れてきているように見える。
- ・ 少しずつ家族同伴の参加者も増加すると共に、一緒にプレーする方も出てきた。このような活動には家族の理解も必要であり、一緒に楽しめる場となればよりよい雰囲気となって進めていくことができる。
- ・ 2時間の間で、練習&ゲームは若干時間が足りない気もしたので、できれば3時間取れるとさらに充実した内容になると思った。
- ・ 今回の練習から、練習をする目的を明確にすること、楽しみながら練習できるメニューを工夫するなど改善する点もあると感じた。また、意外とルールについてはっきりと知らない人が多いことに気がついた。(フットサルのボールがサッカーのボールより小さく、重いことなど)

### 4. 今後の展開

- ・ 未経験者にとっての基礎練習は有効だが、簡単に身につくものではないので、30分という短い時間でも継続して実施していく予定。
- ・ 活動の継続、新メンバーの勧誘の成果もあって、コンスタントに20名程度の参加者が集まるようになった。今回も初参加の方もおり、今後はフットサルよりも広いコートで開催することも必要になると思われる。
- ・ 次回のフットサル練習会は7月15日(日)、北陸本部との合同練習会は8月下旬を計画している。
- ・ いずれは女子チームができるとさらに参加者も増えるのではないかと思う。

以上

## 国際交流活動報告

### 1. 国際交流活動の趣旨

アジア・太平洋地域を中心に諸外国の若手技術者と相互交流を図り、会員に対して国際交流及び研鑽の機会を提供することを目的に活動を実施した。

### 2. 平成 23 年度の活動内容

平成 23 年度は、昨年度から継続して日韓、CAFEO/YEAFEO、香港、豪州の 4 つを柱として、国際交流活動を行った。

#### (1) 日韓技術士会議第 5 分科会、親善サッカー大会に協力（韓国 大邱／2011 年 10 月）

日韓技術士会議において、日韓技術士会議実行委員会に協力し、英語発表セッションの第 5 分科会および親善サッカー大会を実施した。

#### (2) CAFEO/YEAFEO 派遣（ブルネイ／2010 年 11 月）

CAFEO/YEAFEO は、技術士会会員に募集を行い、5 名の応募があった。その中から、青年技術者 3 名を選出して派遣した。派遣者および応募者は引続き青年委員会の活動に協力しており、委員会活動への興味付けのためにも有効な企画であることが示されている。

#### (3) 香港工程師学会（HKIE）との交流

香港の若手技術者との関係を強化するため、相互訪問交流を続けて来た。本年度は、香港から技術者を招聘すべく調整したが、先方とのスケジュールが合わず、交流の開催を見送った。青年技術者（3 名）を香港工程師学会（HKIE）に派遣し、意見交換及び文化交流を行った。

#### (4) オーストラリア技術者協会との交流

日豪の若手技術者間の交流活性化と日豪技術士会間の関係強化を目的に、オーストラリア技術者協会への委員派遣を予定していたが、豪州側との関係を築けず、派遣について再検討することとした。

#### (5) 国際交流成果報告会を開催（2012 年 1 月）

海外交流の成果と青年技術者の海外活動を共有するため報告会を開催した。

### 3. 今後の活動・展開

日韓技術士会議においては、青年技術士の参加者数が増えて活動が活性化するよう、引続き広報活動に努める。

CAFEO/YEAFEO は、青年委員会の交流活動において唯一の多国間交流の場である。公募派遣を継続実施し、ASEAN 加盟国を中心として交流を深化させる。

香港との交流も互いに相手国を訪問して交流を深めるという活動スキームが定着しつつあり、今後はより広い会員層へフィードバックを意識した交流機会を提供していく。

オーストラリアとの相互訪問については、日豪青年技術士会間の交流のあり方について引続き検討する。





行事名	第41回日韓技術士会議参加報告
日時	平成23年10月13日(木)~15日(土)
場所	韓国 大邱(テグ)広域市、EXCO
参加者	三留規誉、武井遼

## 1. 背景・目的

毎年開催されている日韓の技術士交流を目的とした日韓技術士会議にて、青年技術士交流実行委員会は、プレイベントである親善サッカー大会と本会議後の英語発表分科会に協力をしている。

今回、第41回 日韓技術士会議 が韓国の大邱の EXCO をメイン会場に、10/13~15の日程で、「自然と人工災害対策における技術士の役割」をメインテーマに実施された。10/13に行われた親善サッカー大会に19名が日本チームの選手として参加し、10/14に行われた第5分科会英語発表に3名の発表があった。

## 2. 内容

### 2-1. 第7回 日韓技術士親善サッカー大会

大会初日の10/13 15:30~18:00、大邱スタジアム予備競技場にて、第7回 日韓技術士親善サッカー大会が実施された。

昨年の対戦で日本は初勝利し、今回も打倒韓国チームを目標に練習を重ねてきた。フレンドリーマッチ前半(20分)、レギュラーマッチ前半(20分)がそれぞれ0-0で終了した。式典として日韓両国の技術士会会長他、来賓の方々の挨拶、両国幹部のPK戦が行われた後、フレンドリーマッチ後半(20分)、レギュラーマッチ後半(20分)を行った。フレンドリーマッチは0-0で引き分けた後、レギュラーマッチの後半戦の試合を開始した。韓国チームの攻撃にゴール付近を攻められるも、GK 荒木啓司選手の好守等により守り切り0-0で後半は終了し、勝敗はPK戦で決着をつけることになった。PK戦は、3-2で日本チームの勝利となった。

試合終了後のウェルカムパーティには日韓合わせて約80名の参加があり、盛大に行われた。翌10/14、本会議終了後の晚餐会の会場にて優勝杯の授与とMVP及び敢闘賞の発表があり、日本チームからは山崎浩司選手がMVPを、荒木啓司選手が敢闘賞に選ばれた。

### 2-2. 全体会議

全体会議は10/14 9:00~12:00 EXCO3階のホールにて行われた。日韓両国の技術士会会長、日韓の実行委員長の挨拶に続き、日韓双方の基調講演があった。

日本：伊藤徹氏 「グリーンテクノロジーと技術士の関わり」

韓国: 李康建氏 「The Development of Green Technologies and rules of Professional Engineers to realize Green Growth Strategy」

### 2-3.第 5 分科会(英語発表)

10月14日 13:00~17:00 に実施された第 5 分科会では、沈淳輔座長、田吹隆明副座長の司会のもと、日本側 3 名、韓国側 4 名の発表が行われた。発表内容を発表順に下記する。

第 5 分科会

①The four rivers restoration project

沈淳輔

洪水対策、生態環境、水の衛生を改善するための 4 つの大きな河川保全プロジェクトの話。

②地球温暖化に対する日本の最先端の空調技術・室内・業務用空調システムについて

時合健生 (化学部門)

最先端の空調システムの技術について

③A study on the Behavior of Reinforced Concrete Beams Using Recycled Aggregate

朴泰熙

④日本における創薬研究所の Sustainable 建築の Trend

沼中秀一 (衛生工学部門)

創薬研究所でエネルギー消費と CO2 を削減するための建築をベンチレーションシステムを中心に概説した。

⑤A study of necessity of double water spray on massive jumbo tank

李潤鎬

消化活動に用いられる巨大なジャンボタンクのダブル放水の効果を検証した。

⑥銀 Nano 粒子薄膜の新規な発色

前田秀一 (化学、総合技術監理部門)

簡便に色を変えることができ、加工に便利な新規の銀 Nano 粒子のフィルム技術について概説した。

⑦NOISE from HIGH SPEED TRAIN

Jung Gon Son

高速列車の騒音を減少させる技術について概説した。

### 2-4.晚餐会

10月14日 19:00~21:00 に晚餐会が執り行われ、日韓技術士会双方の会長の挨拶に続き民族舞踊などの催しがあり、途中にはサッカーの授賞式では韓国技術士会会長から日韓の選手(チーム代表・MVP・敢闘賞)に対し賞品の授与が行われた。最後は女性技術士を中心とした構成で、韓国・日本それぞれによる歌の披露があり、盛大な内に締めくくりとなった。

## 2-5 研修視察

最終日（10/15）の研修視察は、第5分科会でも発表された河川保全プロジェクト建設現場の視察および、大邱(テグ)広域市地下鉄工事現場の視察を行った。

午前中の河川保全プロジェクト建設現場は、前日の会議でも報告されていた自然と人間の共生を重視した造りとなっており、河の水量に応じた可動式の水門や魚が遡上するためのバイパスなどを実施に観察することが出来た。一方で水力発電設備も建設しており、河川周辺のスマートシティ建設と併せての大型プロジェクトであることも分かった。施工主である Kwater 社は飲料水の製造販売も手掛けるなど、いわゆる韓国の水メジャー企業のようなものである。

午後の大邱(テグ)広域市地下鉄は、既に市内で開業中の2路線に続く3番目の鉄事業である。なお、本3号線は軌道系交通機関（モノレール）であり、韓国内で初めての軌道系交通機関であるとのこと。車両は3両編成で、総延長は23.95km、30駅を建設中であり、2014年開業予定である。モノレール橋脚の建設現場と、レール部（コンクリート製）を製造している工場を見学した。

昼食は名物のカルビチム料理が用意され、大邱の味を満喫することが出来た。

## 3. 成果と所感

- ・ 今回、全国から多くの方々の参加があり、また、サッカー経験者もかなり参加されていた。試合には全員が参加することができ、試合を通じた韓国チームとの交流、また試合後のパーティーではより一層の交流を図ることができた。
- ・ アウェイで韓国に勝利という結果は、関東や北陸支部では定期的に活動・交流していることもあり、選手間のチームワークによるものもあったと思う。
- ・ 第5分科会（英語発表）では専門分野の違いを超えて活発な質疑が行われた。
- ・ 親善サッカーや懇親会、分科会等を通じて青年層同士の活発な交流が図られた。
- ・ 韓国の水メジャー企業の取り組みに触れることができ、日本における水利事業の遅れを改めて実感した。
- ・ モノレール建設現場ではヘルメットの着用義務も無く、日本との安全性の違いを感じたが、日本以外のアジア国特有の拘束事項の無い自由な現場見学が出来た。
- ・ 韓国技術士会においてはサッカー親善試合を日韓会議イベントの一部と位置付けており、有志でボランティア的に企画する範疇を超えた扱いとの印象を覚えた。日韓技術士会議実行委員会においても日本技術士会におけるサッカーの位置付けを明確にしてゆくべきであろう。

## 4. 今後の展開

- ・ サッカー/フットサルについては、さらに活動の輪を広げ、より活発な交流を図っていきべきだと感じる。

- ・ 継続して活動するには、さらにメンバーを増やす必要があり、今後は技術士や技術士補でない青年層の参加を積極的に受け入れ、これをきっかけに技術士となり、サッカーだけでなく例会などにも参加されることを期待したい。
- ・ 次回の日韓技術士会議は、中部 名古屋市で行われる。日韓の若手技術士の交流の機会を与えるため、日韓技術士会議行事に参加継続することが、各人の人脈の形成と拡大に役立つものとする。

以 上

行事名	国際交流：CAFEO29/YEAFEO18 in Brunei Darussalam
日時	平成23年11月27日—30日
場所	The Rizqun International HOTEL バンダルスリブガワン市内
担当者：（〇印リーダー）	〇小川尚之、千葉剛、葛西健司（報告者）
参加者数	3名（内委員補佐 1名）

## 1. 背景・目的

ASEAN 諸国との交流による青年層の委員会活動の情報交換、青年層の国際意識向上を目的として、2003 年度より、CAFEO（The Conference of the ASEAN Federation of Engineering Organizations）の青年層 YEAFEO（Young Engineers of the ASEAN Federation of Engineering Organizations）との交流を継続している。2011 年度は、日本から 3 名の若手技術者（全員修習技術者）をブルネイへ派遣した。



Rizqun HOTEL 外観（CAFEO29 会場）



CAFEO29 の看板

## 2. 内容

### 2. 1. ウェルカムパーティー（11月27日（日）19:30～21:30）

The Rizqun HOTEL に併設の The Mall 内にてウェルカムパーティーが開催された。このイベントは CAFEO と合同で実施された。地元ブルネイや近隣のマレーシア料理を堪能した。このイベント時にマレーシアやシンガポールの Young Engineer Committee（以下 YEC）の Chairman や他のメンバーと名刺交換を行い、親睦を深めた。

また、The Mall 内では CAFEO に関連した展示場を設け、一般の方向けに CAFEO、および ASEAN 諸国技術団体の展示を行っていた。



ウェルカムパーティー会場の様子



CAFEO 展示ブース

## 2. 2. YEAFEO ミーティング、カントリーレポート(11月28日(月)10:00~16:00)

The Rizqun HOTEL 会議場にて YEAFEO ミーティング、及びカントリーレポートが行われた。

参加各国の紹介の後、前回の議事録の確認と審議が行われた。内容については①WEB サイトについて、②Associate ASEAN Engineer 構想について、③インターンシッププログラムについて、④情報の共有方法についてであった。また次回の YEAFEO の議長は開催国カンボジアの TanaJewlie 氏(今回は副議長)に決まった。

カントリーレポートは、1カ国あたり約 10~15 分程度の持ち時間で発表が行われた。発表に対する質疑応答は行われなかった。発表順は、①ブルネイ(開催国)、②インドネシア、③マレーシア、④ミャンマー、⑤シンガポール、⑥タイ、⑦日本、の順。フィリピン、ベトナム、カンボジア、ラオスは不参加。

国により違いはあるものの、概ね YEC の参加に関して 35 歳以下と定義している国が多かった。各国共に 1 年間の YEC における活動報告がメインであった。各種勉強会・セミナーの開催、テクニカルツアーの実施、近隣諸国との国際交流活動、旅行等の実施報告が主な発表内容であった。また、タイの発表では最近発生した洪水被害の状況についての話題も取り上げられていた。

日本は小川氏が代表でプレゼンを行った。日本技術士会青年委員会の 1 年間の活動報告として、例会企画コンペ、ディベート、技術士全国大会、東京湾岸観察活動会、韓国、及び香港との国際交流に関する内容を中心に話しを展開した。

カントリーレポート終了後、各国代表によるプレゼント交換会の実施、及び記念写真撮影会が行われた。また、この日の夜は公式のパーティー等の予定はなかったため、マレーシア YEC が中心となり、会議場付近の屋台にて YEAFEO メンバーで夕食を共にして親睦を深めた。





会議場にて(日本の代表 3名)



インドネシア代表とプレゼント交換



各国 YEC の Chairman



各国 YEC の Chairman と主要メンバー



議長の Muhamad 氏(ブルネイ:中央)と副議長の TanaJewlie 氏(カンボジア:右)



ナイトパーティーでの1コマ

### 2. 3. オープニングセレモニー(11月29日(火)10:00~14:00)

The Rizqun HOTEL 大宴会場にてブルネイの技術者団体 PUJA (Pertubuhan Ukur Jurutera Arkitek)主催により CAFEO オープニングセレモニーが盛大に実施された。ブルネイ伝統の音楽と踊りによりセレモニーが始まった。PUJA 会長挨拶の後、ASEAN 各国の代表による記念写真撮影、続いて基調講演が 3 件実施された。途中の休憩時間に、各国毎に参加者がステージ上に上がり記念撮影を実施していた。



オープニングセレモニー



PUJA 会長(左側)



日本の YEAFO 参加者(左から千葉・小川・葛西)



ステージ上にて記念撮影

### 2. 4. CAFEO カントリーレポート(11月29日(火)14:00~17:00)

ASEAN 各国の代表により、自国の紹介、自国技術者団体の概要、活動報告、将来の展望を中心に 15 分程度で発表が行われた。発表は①ブルネイ(開催国)、②カンボジア、③インドネシア、④ラオス、⑤マレーシア、⑥ミャンマー、⑦フィリピン、⑧シンガポール、⑨タイ、⑩ベトナムの順で行われた。発表は各国共に技術者団体の幹部が行っていたが、カンボジアとベトナムは若手の女性技術者が代表で発表を実施していた。



## 2. 5. YEAFEO 夕食会&ナイトツアー(11月29日(火)19:00~23:00)

CAFEO 行事終了後、YEAFEO メンバー全員で空港の近くにあるレストランに行き、食事を取りながら親睦を深めた。夕食会は 2 時間程であったが、会議と違いお互いリラックスした状態にて、お互いの国の状況や文化について、あるいは普段の仕事や趣味の話といった個人的な話題をメインとして、参加者同士、個人レベルでの親睦を深めた。

この夕食会を含め、全ての公式的な行事において酒類の提供は一切なく、飲み物はジュース類で親睦を深めた。ブルネイは厳格なイスラム教徒の国ということで、公共の場で酒類を口にすることはできないという法律に基づくものであり、この CAFEO においても、ブルネイの法律に従う形で行事が実施された。

夕食会后、バンドルスリブガワン市内中心部へ移動して、ナイトツアーが行われた。市内中心部を徒歩で移動して、オールドモスク(スルタン・オマール・アリ・サイフディン・モスク)の見学を実施した。オールドモスクはライトアップされており、美しい景観であった。徒歩での移動中、参加者は皆で写真を撮り合い、談笑しながら移動中の場を盛り上げていた。



夕食会



オールドモスク

## 2. 6. テクニカルセミナー(11月30日(水)8:15~12:00)

午前中にテクニカルセミナーが実施された。テクニカルセミナーは主に 5 つのグループ(①調査・新制度・開発系、②エネルギー資源系、③建設インフラ系、④製造・オートメーション系、⑤健康・安全・環境系)に分かれて同時進行で実施された。各グループ共に若手を中心に様々な国の技術者がプレゼンを行い、活発な意見交換が実施されていた。特に女性技術者の発表が多かった点が印象的であった。

## 2. 7. テクニカルビジット(11月30日(水)13:00~17:00)

午後は CAFEO と合同でテクニカルビジットが実施された。テクニカルビジットは3種類用意されていた(①カンポン・アイール見学、②メタノール工場見学、③公共住宅計画地見学)。日本の参加者3名は全員カンポン・アイール見学を選び、ツアーに参加した。

カンポン・アイール(Kampong Ayer)とはマレー語に由来しており、Kampong は村(Village)、Ayer は水(Water)を意味している。カンポン・アイールはブルネイ川の上に水上集落を形成している。集落は川の数箇所に分かれて点在しており、それぞれ集落毎に船着場を持っており、集落間の移動はボートを用いる。

ツアー参加者は市内中心部のボート乗り場から観光船に乗り、数キロ離れた集落まで移動して、実際に集落の1つに上陸した。ここは1つの小さな街を形成しており、集落の中に診療所や交番、モスク、商店、小学校が存在した。小学校には子供達がいて、我々訪問団に興味津々であり、一緒に記念撮影を行った。子供達の元気さと無邪気さは万国共通であると改めて感じた。



観光船に乗る CAFEO/YEAFEO メンバー



水上集落のモスク(左)と小学校(右)



小学校の子供達と記念撮影



YEAFEO メンバーと日本の現場代理人(小野氏)

この集落を後にして、市内中心部の対岸にある大きな水上集落に立ち寄り、集落の建設現場、及びカンポン・アイール記念館の見学を行った。この集落の建設工事は日本の建設会社により工事が施工されており、現場責任者は日本人の建設技術者であった。日本から遠く離れた異国の地で日本の技術者が活躍する姿を目の当たりにして、日本の高い技術力が世界の発展に大きく貢献していることを改めて実感した。また、日本の技術者の活躍が、世界における日本の評価に大きく影響を及ぼしており、技術者が背負う責務の重さも併せて実感した。



カンポン・アイール記念館からみた水上集落



水上集落の1コマ

## 2. 8. フェアウェルパーティー(11月30日(水)19:00~22:00)

テクニカルビジット後、ブルネイで一番高級のエンパイアホテルに移動して、フェアウェルパーティーに参加した。日本は YEAFEO 参加の 3 名の他に、CAFEO への参加者 3 名も合わせた 6 名にてパーティーに参加した。パーティーはホテルの最も大きな宴会場で行われた。

最初は開催国ブルネイから次回開催国のカンボジアへ CAFEO フラッグの引渡しが行われた。その後、各種表彰が行われた後、パーティーのメインイベント、各国の催し物が行われた。各国 10 分程度で自国の歌を皆で合唱する国が多かったが、中には自国の伝統芸を披露する国もあった。各国共に自国の伝統衣装に身をまとい、力の入れ方が本格的であった。

日本はお祭り用ハッピー、袴、空手着等、人により衣装は異なるものの、どの衣装も他の国の注目を集めていた。日本の発表は最後に発表する開催国ブルネイの前であった。日本は毎年恒例の空手の板割りを披露した後、参加者 6 名で青年委員会の横断幕を持ちながら「ヤングマン」を熱唄した。歌が始まると、他国の YEAFEO メンバーが皆一斉に舞台上上がり、我々と一緒に歌いながら場を盛り上げてくれた。その迫力は凄まじく、会場の盛り上がりは最高潮に達していた。

ブルネイの発表後、YEAFEO メンバーとブルネイメンバーが中心となり、ブルネイの音楽や、次回開催国のカンボジアの歌に合わせながら、皆で踊り、歌い、親睦を深めた。催し物終了後も皆で記念撮影を行い、最後まで会場の盛り上がりの熱が冷めることはなかった。終了時間が迫ったころには別れ



を惜しみつつ、今後この CAFE0 での再会を約束して、硬く握手をして別れを告げた。このイベントでは、参加者の国や文化、言葉の壁を越えた一体感は、かつて経験したことのない、言葉では表現できない位、感動するものであった。



CAFE0 フラッグ引渡し式



フェアウェルパーティー会場の様子



日本代表団の催し物(ヤングマン熱唱)



毎年恒例、空手の板割り



日本とシンガポールの記念撮影



日本と YEA FEO メンバーの記念撮影

### 3. 成果と所感

4 日間、ASEAN 諸国の若手技術者との交流を通じて、改めて国際交流の素晴らしさを実感した。参加者は企業に勤める会社員技術者の他に、大学等教育機関の指導者、現役の大学生に至るまで多岐に渡っていた。参加目的も人により大きく異なり、参加者各自が自分なりの目的を持ってこの CAFE0/YEAFEO に参加している様子が伺えた。

しかし、目的は異なるものの、参加者は皆、この会議を通じて出会う他国の若手技術者との交流を心の底から楽しみ、価値観を共有し合い、お互いを認め合い、この素敵な出会いを心ゆくまで堪能していたことが特に印象的であった。

特に企業で働く会社員にとっては、時間等の制約、および交流の場自体が少ないことから、交流を目的とした場に参加することは困難である。その中で、国、専門分野、所属等の垣根を越えて一堂に介するこの CAFE0/YEAFEO は自らの国際感覚向上の他に、他国の様々な人達との出会いを通じて、自らの将来や、今後あるべき姿を考える貴重な経験が得られる場所であることを、私はこの会議への参加を通じて強く感じた。

今回、私はコミュニケーションを取るための語学力に不安を抱えての参加となったが、現役の大学生や会社員になって数年の若い技術者達とは、片言の単語を並べる程度の英語でも、辛うじてコミュニケーションを図り、情報交換が行えた。しかし、この会議へ参加する本来の目的である、他国の青年委員会活動に関する情報の共有に関しては、語学力不足により情報の共有は出来なかった。また、ASEAN 各国の人達が日本の代表に求めるものが何であるのか、伺うことも出来なかった。他国 YEC の Chairman、および幹部の方についてはドクターの方もおり、技術者としても、語学力に関しても一流であり、私自身の現在の能力では対等に話が出来る状況ではなかった。

この様な会議に国を代表して参加するためには、一定の語学力を有していることが重要であると改めて感じた。語学力が不十分であると、こちらから情報の開示が実施できないため、相手の信頼が得られずに、相手から必要な情報を引き出すことも困難になるからである。語学力以外においても、ドクター等の一流の肩書きを有している技術者と対等に渡り合うためには、こちらも一流の技術者と思われるような、高い技術力、経験と共にドクターに匹敵する肩書きも併せて必要であると感じた。そのためにも、日本の場合には技術士資格所得が有効な手段の一つであると感じた。

会議が始まった当初は、言葉も分からずに会場の雰囲気馴染めずに苦労した。しかし夜のパーティー等で ASEAN 諸国の若手技術者と親睦を深めるうちに、徐々に彼らと心が通い合い、最後のパーティーの時には完全に自分も CAFE0 の中に溶け込んでいた。パーティーが終わる頃には会場の皆と別れることを惜しむ程の気持ちになっていた。最初は不安で、心配な気持ちで成田空港を飛び立った時には、会議に参加してこのような気持ちになるとは想像もしていなかった。会議の場も、そこに参加していた人達も皆魅力にあふれ、またこの場に戻って来たいと思える程、CAFE0 は素晴らしい場所であった。

#### 4. 今後の展開

他国は現役の大学生等の若手技術者の参加が目立った。特にミャンマーやマレーシアは YEC のメンバーの半数以上は大学生であり、女性の姿も目立っていた。推測ではあるが、各国共に技術者団体からの援助により参加しているものと思われた。他国は若手技術者の育成に関して大変力を入れている様子が会議への参加を通じて伺えた。

一方、日本は毎年 30 歳前後の企業に勤める技術者が参加しているが、現役学生の参加が少ないと感じている。これは学生に対する CAFEO の認知度の低さも影響していると思われるが、資金的な面においても学生の参加は厳しいものと感じている。今回ブルネイでの開催ということで、日本からの直行便がないため、乗り継ぎを余儀なくされ、必然的に多額の旅費を要する結果になってしまった。私は企業勤めの技術者であるが、今回の旅費に関してはかなり資金的に厳しいと感じている。日本技術士会から若干の補助金が交付されるものの、充分とは言えないレベルであると感じている。

今後、このような素晴らしい国際会議の場を少しでも多くの若手技術者、及び現役の学生に経験して欲しいと私は考えている。しかし、参加をするためには費用が必要となる。少しでも多くの参加者に国際舞台を経験してもらい、派遣事業を継続していくためにも、参加者の資金面の負担を軽減するため、更なる補助金制度の充実を今後、期待したい。

最後に、このような国際会議は継続して参加することが望ましいと感じている。実際 ASEAN 諸国では大半の技術者が毎年参加している。日本の場合、費用面の他に休暇所得の問題もあり、継続参加は困難な状況である。しかし、私は魅力あふれる ASEAN 諸国の若手技術者の仲間達に会うために、是非もう一度、CAFEO/YEAFEO の場に参加したいと考えている。そのためには、まず技術士 2 次試験に合格をして「技術士」となり、語学力を向上させて、次は「Professional Engineer, JAPAN」の称号を胸に、堂々と日本の代表として参加することを目標の 1 つとして、まずは技術士 2 次試験合格に向けて頑張っていきたい。

以 上

行事名	国際交流活動講演会
日時	2012年1月21日(日)13時30分～18時00分
場所	葺手第二ビル5階会議室 CD 会議室
講師、発表者	・ YEAFFEO 報告:小川氏、千葉氏、葛西委員補佐 ・ 国際活動報告:山中委員、田村前委員長
担当者: (○印:リーダー)	○武井、昆野
参加者数	22名(内委員5名、委員補佐6名)

**1. 背景・目的**

例年行われている YEAFFEO 参加者の活動報告を実施し、例会参加者と国際交流活動の成果を共有する。また、国際活動の経験者として、山中委員、田村前委員長にも、各々の活動を講演していただき、参加者に良い刺激を与えていく。

本企画は、国際活動経験者の講演・報告を通じて、海外志向の技術者に考察と交流の機会を提供することを目的としている。本企画により、参加者のモチベーションアップ、人脈形成等の効果が期待できる。

**2. 活動内容**

まず YEAFFEO 参加者3名の講演を実施し、各々に所見を述べていただいた。次に、山中氏、田村氏の順で講演を実施した。持ち時間は各々1時間程度。発表後には質疑応答を行い、参加者との意見交換が行われた。発表内容は以下のとおりである。

- ・ 「アジア地域における青年技術者の国際交流のあり方について」  
- 第 18 回 YEAFFEO 国際会議(ブルネイ)派遣者からの提言 - …… 小川氏、千葉氏、葛西委員補佐
- ・ 「核燃料サイクルに関するアメリカの研究開発」 …… 山中委員
- ・ 「ドイツ研修を経て - プロボノで活かす技術士 -」 …… 田村前委員長

終了後、発表者らを囲んでの交流会を実施した。交流会終了後、番外編として山中委員より、アメリカの食べ物、散策先、個性的な職場仲間、街で偶然出会ったアメリカ人家族などの紹介が行われ、アメリカ文化の一片が垣間見えた。

**3. 成果と所感**

<YEAFFEO 国際会議派遣者からの提言について>

派遣者の提言からは、海外主催者側と日本技術士会の関係が、徐々に親密になってきていることが伺えた。しかしながら、毎年ほぼ同一の参加者が出席している東南アジア各国に対し、青年委員会側は毎年別の参加者が出席していることから、参加者の達成度、到達点はどうしても低めである。今年度の参加者もこうした感想を抱いており、もっと達成度を高めていくために、次回から参加者募集を早め、引継ぎを密に行なっていくと良い、などの意見が出ている。

今年度の成果の一つとして、Facebookにより、東南アジア出身の参加者と、手軽で継続的な交流の手段を持つことが出来るようになった点がある。引継ぎの充実と併せれば、今後の活動の密度を濃くするのに役立てられるかもしれない。

<燃料サイクルに関するアメリカの研究開発について>

アメリカの原子力事情の話題から展開しており、講演内容に、より興味を持って入り込むことができる構成であった。後半のアメリカ研究者達のキャラクター、アメリカの職場事情の内容を聴くと、言語だけでなく、文化面による事情の違いが大きいものであるということを感じ取ることができる。また番外編の、アメリカ人の家族感や、アメリカ人の趣味(狩猟)の話題も興味深い。技術やビジネス以外のラフな部分もまた、国際活動の醍醐味と言えるのではないだろうか。

<ドイツ研修を経てについて>

ドイツは市民活動が非常に活発であり、民間企業や市民団体の意思が大きく作用しているようである。そしてそれらのシンクタンクやリーダー役として、有識者や専門家の需要がある。プロボノ活動は、専門家の参加によって、市民団体が社会に対して、より高次元に作用できる活動となり得る。ドイツ研修を経て田村氏は、プロボノ活動から様々な可能性を見出されているようであった。参加者もこの点については大いに議論しており、刺激を得たようである。

個人的には、洗練された内容で、興味深く聞かせていただいた。積極的に海外に視線を向け、活動をしているからこそその充実した内容であると感心している。こうした発表は、技術士(特に海外志向の人間)に大いに刺激になると思う。

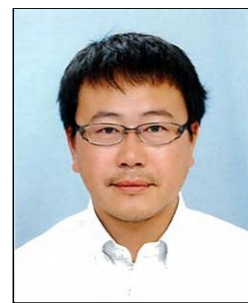
**4. 今後の展開**

YEAFFEO 充実のための提言が少しずつ出てきている。今後、委員の中で議論していきたい。また、香港や韓国との交流も含め、国際活動の成果をより濃密にし、鮮明に示していきたいところである。

—以上—

【記:昆野 哲也】

## 北海道本部の紹介



代表者氏名: 田中真也

部 門: 農業/総監部門

### ■ あいさつ

北海道本部青年技術士交流委員会委員長の田中です。全国の青年技術士の皆様にはいつも大変お世話になり、感謝申し上げます。

平成 23 年 6 月に委員長に就任してから、総括本部の皆様始め全国の青年技術士の皆様、また、力強い北海道の青年技術士交流委員会幹事の皆様のサポートもあり、なんとか 1 年数ヶ月を乗り切ることができております。

この間、我々が企画・開催する行事の運営、全国の皆様との交流活動、地域本部・総括本部との調整、H25 札幌大会に向けた準備など様々な活動に携わってきました。

これらの活動を通じ、H23 当初に設定した活動方針「交流をツールとした資質・モチベーション向上、各自の技術力向上を通じた社会貢献」を念頭に、着々と歩みを進めています。

特に、「学校へ行こう」(JABEE 認定校における技術士の仕事・役割紹介)は青年技術士だけではなく、広報戦略特別委員会など全国的にも注目いただいております。現在も手法の確立・内容の充実に向けて研究を進めているところです。

また、来年開催される北海道大会(すすきの大会)に向けては、テーマ(我々の課題)を「エンジニア世界と市民社会との融合」、実現に向けてのアプローチを「コミュニティとコミュニケーション」と位置づけ、2 つのアプローチを念頭に北海道青年技術士交流委員会の各種研修会等の年間行事、「青年の集い」等の企画を進めています。

今回(H24)の大阪大会には、北海道大会への準備に向けた情報収集・広報の意味もあり、いつもより多くの幹事がお邪魔させていただきます。これを機に、北海道の青年技術士交流委員会が全国的な交流の意義を再確認し、今後の継続的な交流、交流を通じた資質向上・社会貢献などを加速化していくことも期待しております。全国の皆様との、熱い、濃い時間を堪能したいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

### ■ メンバー紹介

北海道青年技術士交流委員会は、北海道本部の実行委員会に位置づけられ、委員長 1 名、副委員長 4 名、幹事長 1 名、会計 1 名、幹事 25 名の計 32 名で構成されています。

活動の内容・企画やスケジュール等を議論する幹事会は月 1 回程度開催しており、その後はもれなく懇親会を開催しております。幹事会は簡潔に、懇親会は激しく、となっており、懇親会へ移行してから様々なアイデアが飛び出すことも珍しくありません。

平均年齢はついに 40 才を超え、毎年、4~5 名ずつ青年の定年である 45 才を過ぎて引退していきますので、組織の持続性という観点からも新規加入を強力に勧める必要があります。



### 3. 本・支部紹介

このため、新規合格者や若手技術士をとりこもうとしておりますが、昨今の厳しい社会情勢や勧誘活動の甘さもあり、少しずつしか進んでいないのが現状です。勧誘方法も含め、総括本部や地方本部の皆様との情報交換・連携を進めていければと考えております。

#### ■ 平成 23 年度活動報告と反省

青年技術士交流委員会の活動は、①「北海道の技術」、②「テクニカルスクール」、③「学校へ行こう」の3本柱が中心です。

①の「北海道の技術」は高度経済成長期に北海道独自の風土に苦勞しながらインフラを作り上げた方々に今のうちにお話しを聞いておいた方が良いというところからスタートした講演会ですが、現在は当初の目的にとらわれず、北海道ならではの技術を中心にその時々々の旬の話題を幹事会で選択して開催しています。

本講演会は、技術士活動を広く世間に知ってもらい、また、幅広い層に技術（理科）に興味を持ってもらうため、学校等にも参加案内を行うとともに、学生、一般の方が参加しやすいように無料としています（意見交換会は有料）。

平成 23 年度は JR 北海道等とのコラボレーションが話題となっていた「モバイルコンテンツビジネスと地域活性化」と題して、株式会社コロプラ代表取締役 GM の馬場 功淳様よりご講演いただきました。

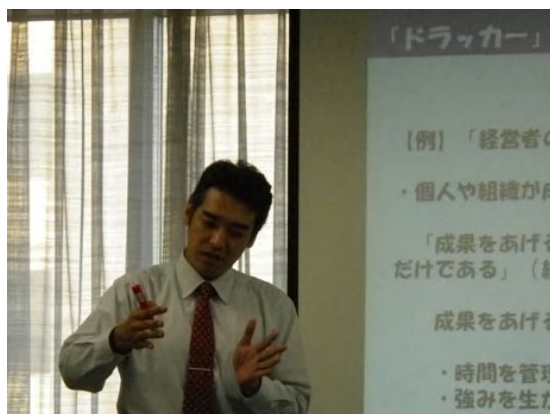


(株)コロプラ 代表取締役 馬場功淳様  
～講演会後の意見交換会より～

②の「テクニカルスクール」は技術士として活動する上で不可欠なスキルの向上を目的としており、対象は技術士・技術士補が基本で有料となっております。

毎回、合意形成、コーチング、マネジメント、コミュニケーションスキルの向上などのテーマを設定し、ワーク形式を取り入れた実践的形式で開催しています。

平成 23 年度は「ドラッカー哲学入門とチームのためのマネジメント」と題してドラッカー学会会員の脇 秀徳様を講師に招いたほか、「技術伝達のための言語技術～なでしこジャパンの秘密を探れ!」と題して、全日本中学校国語教育研究協議会会長（東京都新宿区立四谷中学校校長）の吉田 和夫様を講師に招いて開催しました。



ドラッカー学会会員 脇秀徳様  
～ワークに入る前の講演より～



全日本中学校国語教育研究協議会会長  
吉田和夫様～ワークに入る前の講演より～

### 3. 本・支部紹介

③の「学校へ行こう」は技術士という職業の魅力を学生に伝え、技術士に興味を持ってもらい、技術士の層の拡大や知名度の向上に資することを目的に開催しています。

開催は、学校への打診や学校から技術士会への依頼を通じて実施しており、基本的に対象は JABEE 認定校となっております。

講義の内容は、単なる技術士制度・業務経験の紹介ではなく、社会人として働く楽しさをいかに伝えるか、に力点をおいて組み立てています。本番までに 3 回程度は幹事と講演者が集まり、発表練習・講義内容の見直しを行い、学生の心に深く届くよう完成度を上げてから本番に望んでいます。

平成 23 年度は JABEE 認定校である北海学園大学において、講師 2 名、幹事 7 名（ファシリテータ、前説、会場係などを担当）が参加して開催しました。

このほか、公益社団法人日本技術士会北海道本部の会員、技術士補を含む準会員、北海道本部会友全員を対象としたメーリングリスト EPO (engineer park online : 通称エポ) の運営も平成 10 年から継続して担当しています。



北海学園大学での「学校へ行こう」の講演の様子

#### ■ 平成 24 年度活動計画と抱負

平成 24 年度は 4 月に①の「北海道の技術」として、株式会社ドーコンモビリティデザイン取締役事業部長の澤 充隆 様をお招きし、「札幌発のサイクルシェアリングサービス・ポロクル」をテーマにご講演いただきました。

また、7 月には久しぶりのテクニカルツアー、「苫東火力発電所と巨大クレーン見学」（裏テーマ：迫り来る巨大クレーン）を開催し、北海道におけるエネルギー事情や発電所の仕組み、1,200t クラスの巨大クレーンの機能・利点や事業戦略など、現地見学と座学により学びました。

この後の予定として、9 月に札幌大通まちづくり株式会社の役員と札幌オオドオリ大学（いわゆる市民大学）の学長を講師に招いての講演会、11 月の北海学園大学での「学校へ行こう」、H25 全国大会に向け、ワールドカフェの手法を学ぶテクニカルスクール、その他、大阪で開催される全国大会、名古屋で開催される日韓会議への参加、H25 全国大会に向けた準備作業など、非常に過密スケジュールの中で活動を進めていく予定です。

#### ■ 平成 25 年 北海道大会について

現在、北海道大会の準備を粛々と進めており、来道される皆さんに北海道を堪能していただくべく、幹事一同知恵を絞って検討しているところです。

しかしながら、道外の皆様が北海道にどういったものを求めているのかは想像の域を出ず、具体的な企画に結び付いていないのが現状です。

このため、今回の全国大会時やその後の交流時に、是非、北海道に求めるものをお知らせいただければと思います。

ご満足いただけるよう、精一杯企画させていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

## 東北本部の紹介

代表者氏名:堀内 深  
部 門:建設部門



### ■ あいさつ

本年度より、開米浩久（技術士 建設部門、農業部門）前代表の後を受け、東北本部青年技術士懇談会（以下、青技懇）の代表幹事を務めております、堀内 深（ほりうち しん）と申します。皆様、どうぞよろしくお願いたします。

東北地方は、東北地方太平洋沖地震による甚大な被災から、徐々にではありますが、復興に向かって進み出しています。震災直後より全国の皆様からの多くのご支援・ご協力を頂き大変心強く感じております。あらためて感謝申し上げます。

一方、震災から1年5カ月経過した現在でも、沿岸部の生活再建・高台移転や産業再生、原発事故処理等、思うように進んでいないことも多々あります。また、被災者の心のケアのような目に見えない問題も抱えたままです。最近では、全国放送のテレビで取り上げられることも少なくなっているように感じ、他の地方の方々の関心も薄れていることを危惧します。

しかし、これからが本格的な復興への取り組みとなります。全国の方々にもご協力いただき、行政、企業、民間が一体となって、美しい東北の復興に向けて邁進します。

青技懇も新たな活動に向けて歩み出します。

### ■ メンバー紹介

東北本部 青年技術士懇談会は、代表幹事1名、副代表幹事2名、幹事13名の計16名で活動しています。

平成24年度 青年技術士懇談会 幹事					
NO.	役職	氏名	部門	勤務先	摘要
1	代表幹事	堀内 深	建設	八千代エンジニアリング(株)	
2	副代表幹事	久保 善央	上下水道	積水化学工業(株)	
3	〃	飯島 正顕	建設	(株)建設技術研究所	
4	幹事	五十嵐 栄吉	電気電子	ユアテック(株)	
5	〃	一柳 哲也	建設	(株)間組	
6	〃	大木 高志	建設	(株)復建技術コンサルタント	(H24交代加入)
7	〃	開米 浩久	建設・農業	(株)復建技術コンサルタント	
8	〃	木村 幸由	生物工学	宮城県塩釜保健所	
9	〃	小島 淳	建設・環境	日本工営(株)	
10	〃	柴崎 進	建設	(株)復建技術コンサルタント	(H24加入)
11	〃	辻 孝広	建設	飛島建設(株)	
12	〃	深山 直志	建設	鹿島建設(株)	(H24交代加入)
13	〃	渡邊 弘毅	建設・総合	いであ(株)	
14	〃	飯島 正人	建設	佐藤工業(株)	
15	〃	佐藤 勝幸	建設	パシフィックコンサルタンツ(株)	(沿岸部勤務)
16	〃	水出 佳奈	建設	(株)福山コンサルタント	(盛岡勤務)

### 3. 本・支部紹介

東北本部の特徴として、建設部門の割合が大きいことが挙げられます。現在でも、復興関連業務の対応に沿岸部に常駐する幹事や、応援のため転勤した幹事もおります。

また、仙台での活動が中心で、他県の青年との連携が図られていない状況です。

#### ■ 平成 23 年度活動報告と反省

平成 23 年度は、各幹事が震災復旧事業への対応のため、青技懇の活動は休止せざるを得ませんでした。

限定的な活動として、拡大委員会、全国大会青年の集いへの参加をさせて頂きました。

#### ■ 平成 24 年度活動計画と抱負

一時の殺人的な復旧業務も一段落し、落ち着きを取り戻しつつあります。

今年度は、活動再開元年として、徐々に活動を広げていきたいと考えています。

他本部の活動状況を参考にさせて頂き、本年度の活動計画と中長期の展望を示します。

##### 1) 定例幹事会

基本的に、毎月実施する計画とします。(但し、繁忙期の 1 月～3 月は休止予定)

毎回持ち回りで話題提供を行います。(2 名/月程度)

業務の紹介、自社製品アピール、時事ネタなど、何でも OK。

幹事会の後は、必ず懇親会を行い、結束を深めます。

##### 2) 勉強会、見学会

幹事を対象とした、勉強会、見学会、懇親会を計画します。

非定期・自由参加で、土曜日開催を考えています。

##### 3) 地域交流

現状の東北本部は、仙台での活動に限定されています。

東北他県の青年技術士との交流は行われていません。先日、盛岡に転勤となった幹事を突破口に、地域交流を開始していきたいと思えます。

##### 4) 中長期の活動イメージ

出来ることから、活動を開始し、将来に向け拡大したいと考えます。

活動計画のイメージ			
	H24年度	H25年度	将来
技術の研鑽	・幹事会 (話題提供) ・勉強会、見学会 (幹事対象)	・幹事会 (話題提供) ・勉強会、見学会 (幹事対象) ・講習会 (一般対象)	→内容充実 →勉強会、見学会に一般委員の参加
地域交流	・東北地方との交流 (合同委員会、見学会等) ・他地域との交流 (拡大委員会、全国大会等参加、勉強会資料の共有等)		→定期的な相互交流
社会貢献	・社会貢献活動 (見学会、教室等) (幹事の家族対象)		→社会貢献活動を一般参加へ

#### ■ おわりに

東北は復興に向け着実に歩みを進めています。自然、観光、グルメなど、東北を満喫しに、ぜひとも遊びに来てください！

## 統括本部の紹介



代表者氏名:武井 遼  
部 門:経営工学部門

### ■ あいさつ

我々、青年技術士交流実行委員会は、統括本部研修委員会の下部組織として、主に青年技術士を対象に様々な活動を行っています。メンバーは勤務先や個人事業の業務に携わる中で、時間を工面しながら技術士会ならびに青年委員会において活躍しています。

“情けは人の為ならず”

幅広い部門から、多彩な才能や経験を持ったメンバーが集い、互いに知識や情報を共有する機会を築くことを意識してきましたが、気が付けば周囲から教わることばかり。技術士を目指したときより、はるかに多くのことを学ばせてもらっています。今後も、多くの青年技術士が業務経験だけでは得られないことのない機会づくりを、メンバー総力で取り組んでいきたいと思ひます。全国の地域本部の皆さんとも、協力しながら明るく・楽しく・有益な活動を続けていきますので、よろしくお願ひ致します。

### ■ メンバー紹介

青年委員は統括本部の技術士および、現在は全国地域本部の青年組織代表6名（北海道・東北・北陸・中部・中国・九州）の計21名で構成されています。また委員補佐は、技術士を目指す修習技術者および、委員会活動をサポートしてくれている技術士で構成されています。

統括本部青年委員（15名）

氏名	部門
山地 真吾	機械
品田 義政	機械
片桐 勝広	電気電子、総合監理
田中 雅人	電気電子
佐藤 理英	化学
山本 憲志	金属
小澤 俊博	建設
中村 聡	建設
寫田 泰彦	上下水道、衛生工学、総合監理
横田 幸利	衛生工学
北條 健一	水産
武井 遼	経営工学
鈴木 史人	経営工学
石井 利教	情報工学
山中 淳至	原子力・放射線

委員補佐（10名）

氏名	部門
葛西 健司	機械
末廣 多恵子	化学
松田 みゆき	繊維
渡辺 弘毅	建設・総合監理
昆野 哲也	上下水道
太田 道宏	情報工学
藤井 佳直	情報工学
澤田石 朋彦	情報工学
三留 規誉	生物工学
土井 一寿	生物工学



#### ■ 平成 23 年度活動報告と反省

平成 23 年度は、東日本大震災の影響の元で始まったことに加えて、委員の改選期にあたり活動を支えてきた委員の退任と新メンバーの加入、委員長交代などいろいろな面で大きく変わった 1 年となりました。そんな中、11 月に委員合宿を行って当面の方針を定め、さまざまな背景を持つメンバーで協力しあって活動に取り組んで来ました。以下、主な活動を報告します。

##### 1. 特別例会

『一次・二次試験合格歓迎会及び青年技術士展』を H23.4.28 に開催し、東日本大震災をテーマとした参加型のディスカッション、各部会の協力を得ての部会紹介を実施しました

##### 2. 「青年技術士の集い」を開催

技術士全国大会において「青年技術士の集い」を開催しました(H23.8.25)。テーマを『青年技術士と語る、これからの 10 年。日本の復興に向けて』とし、討議テーマを設けてのディスカッション大会形式として、全国から多くの若手技術者にお集まりいただきました。

##### 3. 若手技術者向け研鑽活動

講演会・勉強会 3 回、テクノツーリズム 4 回、スポーツ交流を含む交流会を 5 回及び国際交流成果発表会を 1 回開催しました。また技術士第一次試験合格者歓迎会においては、パネルディスカッションを実施しました。

##### 4. 国際交流活動

10 月韓国・大邱で開催された、日韓技術士会議において、分科会開催協力、サッカー親善試合を実施し、昨年に引き続き勝利しました。ASEAN 技術者協会連合『YEAFFEO17 (ブルネイ)』の参加者 3 名の派遣の支援を行いました。

##### 5. 各地域本部青年技術士組織との交流

本支部交流会議を技術士全国大会に合わせて開催し、全国各地域本部青年組織の活動内容を共有しました。

##### 6. 委員会の広報活動、その他

平成 22 年度活動年鑑を制作しました。また、ホームページやブログを積極的に更新し、活動紹介、主催行事の事前広報および事後報告に活用しました。

総括本部で導入を検討中の IT を活用した会員サービスの試用について、協力・提言を行いました。

#### ■ 平成 24 年度活動計画と抱負

##### ・青年層技術者向けの研鑽事業の企画実施

「交流」を上位テーマとし、委員の興味・関心を重視して企画立案していく予定です。参加型例会を基本し、部門横断型の例会の開催を目指します。

##### ・国際交流活動

YEAFFEO・日韓技術士大会への参加などこれまでの交流活動を深化していきます。

##### ・各地域本部との連携・交流活動

各地域の青年技術士の活動を橋渡しすべく、IT 技術を活用して交流活動を模索します。

##### ・広報活動の充実

活動成果をアピールし、さらに多くの方々を巻き込めるような広報を目指します。

### 3. 本・支部紹介

#### ■ 活動風景

今年度も会議室にとどまらず、現場に出かけていろいろな活動をしてきました。

4月特別例会



テクノツーリズム企画案の検討



ディベート企画



青年の集い



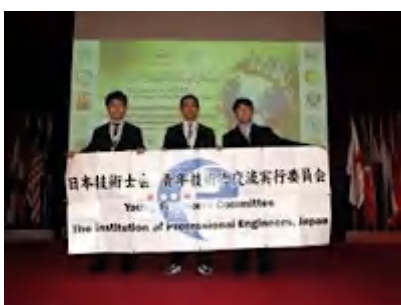
東京湾岸観察会



リスクマネジメント講演・討論会



YEAFFO への参加者派遣



日韓技術士大会(第5分科会)



日韓技術士大会(サッカー親善)



一次合格者ガイダンス  
パネルディスカッション



北陸本部とのサッカー合同練習会



見学会・港湾工事の作業船舶



## 中部本部の紹介

代表者氏名：高瀬 春之

部門：経営工学



### ■代表者あいさつ

全国地域本部の皆様こんにちは。中部青年技術士会代表幹事の高瀬です。

気づけば今年で代表幹事に就任してから3年目になりました。早いものです。振り返れば1年目は、就任早々に三重県で開催された全国大会もあり、体制構築や準備などに追われた「激動の年」、2年目は、その三重県全国大会で培った結束力を維持した「継続の年」だった気がします。そして、3年目は、日韓技術士会議が名古屋で開催されるということもあり、国際交流を含めたさらなる飛躍が試される「進化の年」として掲げ、中部青年技術士会及び全国青年を盛り上げていければと思っています。

当然、この大阪大会も全力で盛り上げていきたいと思っています。皆さんがんばりましょう！

### ■メンバー紹介

中部青年技術会は、代表幹事1名、副代表幹事2名、幹事14名、会員多数名にて構成されております。運営メンバーは下記の通りです。

#### (1) 代表役員（代表幹事、副代表幹事）

代表幹事 高瀬春之 氏（経営工学）

副代表幹事 西垣治郎 氏（総合技術監理、上下水道） \*代表第一代行

副代表幹事 河原弘明 氏（総合技術監理、建設） \*日韓技術士会議担当

#### (2) 役員（幹事）

幹事 倉地 晴幸 氏（総合技術監理・情報工学）

幹事 土性 弘明 氏（総合技術監理・電気電子）

幹事 加藤 靖広 氏（総合技術監理・建設）

幹事 藤田 政利 氏（機械）

幹事 佐藤 大地 氏（修習：機械）

幹事 伊勢野 暁彦 氏（総合技術監理・建設）

幹事 石川 貴史 氏（機械）

幹事 秋山 幸之朗 氏（士補：機械、修習：情報工学、航空宇宙）

幹事 木村 琢磨 氏（修習：電気・電子）

幹事 千坂 博明 氏（修習：応用理学）

幹事 岸本 深雪 氏（機械）

幹事 坪内 剛史 氏（総合技術監理・機械）

幹事 嘉田 義仁 氏（機械）

幹事 西野健太郎 氏（修習：機械） \*新任

幹事 中島 丈晴 氏（上下水道） \*新任



### 3. 本・支部紹介

---

#### ■平成 23 年度活動報告と反省

##### [例会関連]

- ・ 4 月総会 2011/04/2(土) 内容：平成 22 年度活動報告と会計報告、平成 23 年度と活動計画
- ・ 6 月例会 2011/06/11(土) 内容：1. 発泡スチロールリサイクルプラントの見学会  
2. 名古屋中央卸売市場の見学
- ・ 7 月例会 2011/07/9 (土) 内容：中部企業内技術士懇談会との合同例会  
外部講師による講演「2 テーマ」
- ・ 9 月例会 2011/09/17(土) 内容：外部講師による講演「2 テーマ」
- ・ 10 月特例会 2011/10/21 (金) 内容：技術士全国大会、日韓技術士会議の報告、交流会 他
- ・ 11 月例会 2011/11/26 (土) 内容：建設・環境から考えるダム(事業凍結中の設楽ダム) 問題
- ・ 1 月特例会 2012/01/20(金) 内容：今年の抱負を語らうなどフリートークがやがや会
- ・ 2 月例会 2012/02/12(土) 内容：製造WG 活動報告  
「ハッピーセット (マクドナルドの景品) の分解」

##### [WG 関連]

- ・ 製造 WG、環境 WG、建設 WG  
内容：“詳細別紙参照”

##### [本部イベント関連]

- ・ 第 41 回 日韓技術士会議 (韓国 大邱広域市：EXCO) 2011/10/13 (木) ～10/15(土)  
内容：視察、名古屋 PR (2 名) “詳細別紙参照”
- ・ 第 38 回 技術士全国大会 (東京) 2011/08/25 (木) ～2011/08/27 (土)  
内容：青年イベントへの参加
- ・ 青年技術士交流実行委員会総会 (東京) 2011/8/27(土) 10:00～12:00  
内容：拡大運営委員会、各本部交流会議への参加
- ・ 修習技術者研究業績発表会 (中部本部) 2012/02/18 13:00～17:00  
内容：学生、会員発表会
- ・ 日本技術士会中部本部会合 (中部本部)  
内容：各会合への参加

##### [活動成果]

三重県技術士全国大会で培った会員同士の結束力を、  
維持継続することができた有意義な 1 年だったと思います。

##### [今後の課題 (昨年度と変更なし)]

- ・ 新規会員の定着化 ・ 若手会員の増員 ・ 3 役、幹事の世代交代 ・ WG 活動の進化

#### ■平成 24 年度活動計画と抱負

##### [活動テーマ]

技術士のネットワークを最大限に活用し、自らの行動力と継続力を発揮して、  
夢を実現させ、日本の元気につなげよう！

##### [目標]

- ・ 例会参加者数倍と若手会員数増加 AVE30 名 ・ 各部会との連携強化

##### [主な活動予定]

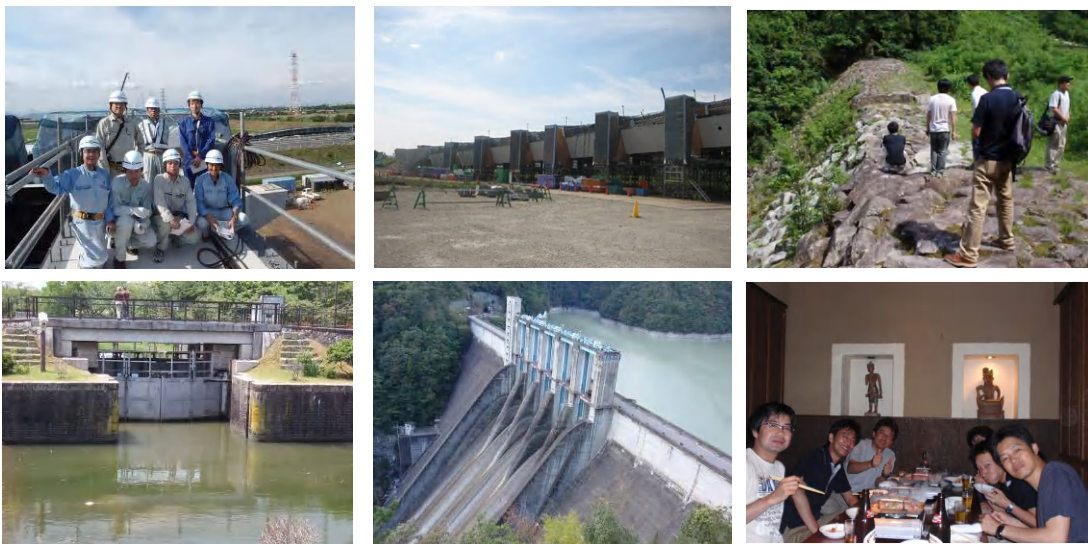
- ・ 各例会 ・ WG (建設、製造、環境、防災) ・ 日韓技術士会議 (名古屋大会)

■ 地域本部の特筆すべき事項

WGの紹介（中部青年技術士会の4つの柱！）

◆建設WG

建設WGは、建設関係の技術部門の方を主なメンバーとして活動しています。現在は、建設工事現場や既存の土木構造物の見学などを中心に活動しています。『会員の意見を大切に楽しく活動』をモットーにしています。H23年度は、治水・利水の観点からヨハネス・デ・レーケと発電ダムに着目し、見学会を行いました。



◆製造WG

製造WGは、主に設計・製造に関わる技術士、技術士補、修習技術者が集まって活動しています。H22、H23年度のテーマは、「分解」です。カメラやドライバー、時計などを題材として構造・機能を勉強し、そして現物を分解してみよう、という試みです。H22年度の題材は“カメラ”です。30年以上前のフィルムカメラから、デジタルカメラまで、各種カメラを分解しました。H23年度の題材は、マクドナルドのハッピーセットについてくる“おもちゃ”です。おもちゃとは言え、電気、機械などの様々な仕掛けが施されており、知恵とノウハウの結集だと驚かされました。



中部青年技術士会 製造WG  
**分解**  
 ～ハッピーセットの分解～  
  
 ファーストフードのおまけである  
 ハッピーセットを分解

発表内容

機構

安全性

低コスト化

### ◆環境WG

環境WGでは、環境分野に興味を持つ若手の技術士、技術士補が各々の専門技術を駆使して環境問題に取り組んでいます。とは言っても、何か特別に難しいことをする訳ではなく、フィールドでの調査・観察活動や勉強会を通じて様々な環境問題について学び、活発に議論しています。また時にはお酒を飲みながら、ちょっと変わったモノ(?)を食べることで生物多様性のもたらす恵みを感じる「喰らふ！」企画も行い、楽しく活動しています。

#### 1. フィールドでの調査・観察活動と勉強会

河川での魚類や水生生物の捕獲調査、野鳥や植物の観察、水質・微生物検査など広範な生態調査を行っています。



魚類、水生生物捕獲調査の様子(家下川)



水生植物調査の様子(家下川)



野鳥観察会(堀川)



イノシシ肉でバーベキュー(戸田川)



荒子川テラピア釣り大会(荒子川)



勉強会の様子

#### 2. 環境WGのお家芸「喰らふ！」とは?

環境WGの大きな特徴に「喰らふ！」という名物企画があります。これは、「人間の最も基本的な行為である「食」を通じて、様々な環境問題を考えよう！」という趣旨のもとに始めた企画です。一部にゲテモノ喰いと噂もあるようですが、断じてそのようなことはありません。たまたま選んだ食材がゲテモノであっただけの事です。



イシクラゲ(藍藻という細菌なのです。)



イシクラゲ試食会の様子①



イシクラゲ試食会の様子②

#### 3. 開発活動もやっています!

環境WGでは、調査したデータの一部をHP上で公開しています。データを公開することは、世間の皆様に我々の活動を知って頂くことに加え、生物相の調査データが社会的な財産であると考えからです。



生物相調査マップ(環境WGのHPに掲載)



### 3. 本・支部紹介

#### 4. ちゃんと発表活動もしています！

環境 WG の活動内容は、HP でのデータ公開の他に、公の場でも発表されてきました。2010年に四日市市で開催された「第35回技術士全国大会」および名古屋市で開催された「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」では、環境 WG を中心としたプロジェクトチームが結成され、「水と食から考える環境問題～バーチャルウォーターって何？～」というテーマのパネル展示及びバーチャルウォーター計算ソフトの開発と展示を行いました。



技術士全国大会でのパネル展示



COP10でのパネル展示①



COP10でのパネル展示②

#### ◆防災WG

今年度（H24年度）より新たに新設されたWGです。先の東日本大震災を教訓にし、来たる東海大地震に備え、我々青年技術士ができることを考え、社会貢献を図る活動です。

活動イメージ：SNS を利用した情報共有

近畿、四国地方技術士会関連との連携

地域ボランティアとの連携

Etc.



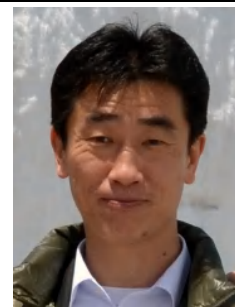
#### H23年度 日韓技術士会議（韓国 大邱広域市）視察

今年度（H24年度）、第42回日韓技術士会議が、名古屋で開催されます。昨年（H23年度）は、日韓技術士会議とはどのようなものかを実感し、多くの韓国（青年）技術士と交流を深め、名古屋開催をPRするため、韓国・大邱での日韓技術士会議に参加しました。

- ・参加人数：韓国技術士会 164名、日本技術士会 105名（同伴者除く）
- ・中部本部参加者：18名（中部青年から2名）



## 北陸本部の紹介



代表者氏名:坂東和郎 (青年技術士委員長)

部 門:応用理学・総合技術監理・建設部門

### ■ あいさつ

昨年度から北陸本部の青年技術士委員長を務めています坂東です。この1年間、北陸の方々をはじめ全国の青年技術士のみなさまと有意義な交流を重ねることができました。感謝申し上げます。任期はあと1年。より魅力的で、より儲かる技術士会を目指していきたいと考えていますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

### ■ メンバー紹介

北陸本部は新潟、富山、石川、福井の4県から構成され、正会員数は約570名です(部門重複含む)。青年技術士委員会は、委員長1名、副委員長3名(岡野康弘、小見直樹、森照代)、委員12名の計16名で運営しています。また、委員のうち小見副委員長は北陸本部地域交流委員、大高章委員は同教育広報委員、小林秀一委員は同事務局兼地域交流委員を兼任するなど、地域本部活動にも積極的にかかわっています。これとは別に、江川千洋キャプテン率いるサッカーチームがあり、各地域本部との交流はもとより、技術士会の枠を超えて楽しく汗を流しています。



北陸の青年技術士たち (H24.6.30、富山県高岡市)

### ■ 平成23年度活動報告と反省

北陸本部の青年技術士委員会では、夏の拡大青年技術士委員会議のほか、本部企画行事を補完するように秋の見学会と冬の講演会を行っています。

#### (1) 拡大青年技術士委員会議

(H23.7.2-3: 福井県敦賀市・小浜市)

北陸の青年技術士委員会のメインイベントです。北陸4県で開催地を持ち回り、一泊二日で行われます。内容は、委員会の活動紹介、出席者全員のスピーチ、各県の活動報告、自由討論、見学会、懇親会です。昨年度は29名の参加があり、自由討論では



第6回拡大青年技術士委員会議 in 福井



### 3. 本・支部紹介

「地域防災や災害時の技術者の役割」をテーマに各自が震災との関わりについて意見を述べました。そして、青年技術士委員会としても、「様々な専門分野を持つ技術者の集団として、組織的な活動や提言を行っていきけるようにしていきたい。」と意見集約されました。

#### (2) 見学会 (H23. 10. 1、新潟県阿賀野市、阿賀町)

「地域の活力、底力」をメインテーマとした秋の見学会であり、昨年度は再生可能エネルギーに着目し、新潟県企業局が全国の自治体としては初めて設置したメガソーラー（新潟東部太陽光発電所）と、阿賀野川本流にある昭和4年建設の東北電力豊美発電所の改修工事現場を見学しました。参加は21名で、熱心な見学が薄暗くなるまで続きました。



秋の見学会（新潟東部太陽光発電所と東北電力豊美発電所）

#### (3) 講演会 (H24. 1. 21、新潟市)

「震災と復興」をテーマに、新潟から復興に関わっている諸橋和行氏（(社)中越防災安全推進機構）から中越地震の経験を基にした、陸前高田市におけるボランティアセンター・避難者連絡協議会の設置と運営について、また野中昌法氏（新潟大学大学院・農学部教授）から放射性物質吸着メカニズム、東北～新潟県内の計測結果などについてご報告を頂きました。



冬の講演会（技術士センタービル）

以上のような行事を行ってきていますが、これらの企画が技術研鑽につながっているか、交流後の発展（たとえば研究協力、社会貢献協力、業務協力など）につながりそうか、魅力的で参加したくなる企画となっているかなど、もう一度見つめ直すことが必要だと感じています。

#### ■ 平成24年度活動計画と抱負

今年度も拡大青年技術士委員会議を6/30～7/1に富山県高岡市で開催しました（前頁の集合写真）。秋の見学会（10/6、新潟県三条市）、冬の講演会も企画中です。青年技術士員会は“技術士会の入口”であると考え、新しい会員を増やすことのできる魅力ある技術士会活動を創造していきたいと思えます。

また、H25年度の拡大青年技術士委員会議では、技術研鑽、交流後の発展を意識した新企画として、「ほくりくの環境技術（案）」をテーマとした技術交流会（発表会）を企画しています。

北陸青年を今後ともよろしくお願いたします。

## 近畿青年技術士懇談会



代表者氏名: 井上信治

部 門: 応用理学部門

### ■ あいさつ

近畿青年技術士懇談会は 1991 年に近畿周辺の有志が立ち上がって組織され、2011 年に満 20 歳を迎えました。2011 年 11 月 20 日に開催しました 20 周年記念例会では、会の立ち上げから現在に至るまで関わりのある多くの方々に駆けつけていただきました。改めて、日頃よりの近畿青年技術士懇談会へのご理解とご協力、そしてご愛顧に心よりお礼申し上げます。

20 周年記念例会で私が特に感じましたことは、近畿青年技術士懇談会のメンバーのみなさんは誰もが実際の年齢に関わらず青年であり、行動力いっぱい、キラキラとした好奇心にあふれているということです。心はいつも青年でありたい—そのような技術者が集い合い、お互いに語り合い、刺激しあう。そんなコミュニティにこれまでも、そしてこれからも有り続けたいと思っています。

また一方、昨今の社会変化やグローバル化による競争の激化、あるいは専門孤立化した状況などによって、技術者達は時に自信を失い、方向を見失い、ちょっと疲れたりするつらい時代でもあります。そんなときにはお酒の力も借りながら、お互いの悩みを共有し、応援し、励ましあう。そんな“懇談会”としての心地よさを同時に持ち合わせておきたいと、私は考えています。

これからも、月 1 回の例会での技術交流をベースに、日本技術士会の下部組織ではありませんが、近畿統括本部のご指導やご理解も賜りながら、特に異分野の交流を意識して広く社会を見据えた活動を、小さいながらも熱い活動を脈々と続けていきたいと考えています。これからも引き続き近畿青年技術士懇談会 ([www.seigikon.jp](http://www.seigikon.jp)) への熱い視線を賜りますよう、メンバーを代表してお願いし、ごあいさつとさせていただきます。

### ■ メンバー紹介

平成 24 年度の幹事役員は下記の通りです。

井上 信治	技術士 (応用理学)	代表幹事
小宮 洋行	技術士 (上下水道/総監)	事務局
今井 寿子	技術士 (電気電子)	事務局補
苅谷 英明	技術士 (環境)	会計
宮田 秀夫	技術士 (環境)	会計補
一花 裕一	技術士補 (化学)	幹事(WEB 担当)
渋谷 高広	技術士 (機械)	幹事(WEB 担当)
赤穂 清隆	技術士補 (経営工学)	幹事
宮西 健次	技術士 (化学)	幹事
藤本 喜敏	技術士 (機械)	幹事
清水 龍	技術士 (建設)	幹事
太田 高志	技術士補 (電気電子)	幹事
喜多 繁幸	技術士 (機械)	幹事
酒井 護	技術士補 (化学)	幹事
加島 清	技術士 (建設)	幹事
土田 明	技術士 (総監/建設/電気電子)	監査

### 3. 本・支部紹介

#### ■ 平成 23 年度活動報告と反省

- ・平成 23 年度も下記のとおり多彩な内容で例会を開催しました。
- ・日本技術士会近畿統括本部との共催で 6 月と 3 月に技術士資格サポートセミナーを開催し、技術士をめざす方々からもご好評を頂きました。
- ・8 月にはファミリーツアーとして兵庫県三田市にある株式会社モリタの消防自動車工場の見学／人と自然の博物館／キリンピアパーク神戸を巡ってきました。
- ・11 月には 20 周年記念例会を開催し、延べ 64 名の方々にご参加いただき、これまでの歴史のみならずこれからの未来も熱く語り合いました。
- ・反省としては、事務局の負担の集中やホームページの更新が滞ることなど会の運営方法が挙げられます。今後 facebook の活用で幹事間の意思疎通を図るなどを円滑な運営をめざします。

開催月	開催日	講演・講師	※会場, 参加人数 (例会/懇親会) ↓
4 月 例会	4/29 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2011 年度総会(活動報告・幹事交代等)</li> <li>・講演:「Nissan LPIE での活動とそこで得たもの」 講師: 渋谷 高広 技術士 (機械部門)</li> <li>・講演:「仕事に活かせ! Google ドキュメントとクラウドコンピューティング」 講師: 藤本 純一 技術士 (建設部門・応用理学部門)</li> </ul>	※1 36/26
5 月 例会	5/27 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演:「意外と知らない転職ノウハウ」=知らないだけで迷い人= 講師: 赤穂 清隆/技術士補 (経営工学部門)</li> <li>・講演:「東日本大震災 宮城県岩沼市での災害ボランティア体験記」 講師: 藤本 喜敏 技術士 (機械部門)</li> </ul>	※1 35/30
6 月 例会	6/24 (金)	技術士資格サポートセミナー: 共催: 日本技術士会 近畿本部 <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演:「考える技術・書く技術」講師: 平田 友美 技術士 (建設部門)</li> </ul>	※1 38/24
8 月	8/20 (土)	ファミリーツアー (兵庫県三田市) <ul style="list-style-type: none"> <li>・モリタ工場見学(消防自動車の工場)</li> <li>・兵庫県立人と自然の博物館 ・キリンピアパーク神戸</li> </ul>	合計 33 大人 19 小人 14
9 月 例会	9/30 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術士全国大会参加報告</li> <li>・講演:「火力発電の技術動向」講師: 藤本 喜敏 技術士 (機械部門)</li> </ul>	※2 26/18
10 月 例会	10/28 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演:「好感度アップのロジカルコミュニケーション」 講師: 工藤 友美 技術士 (建設部門)</li> </ul>	※2 16/17
11 月	11/20 (水)	近畿青年技術士懇談会 20 周年記念例会 第一部 分科会形式 (今後の青技懇/お茶会) 第二部 講演会形式 (OB/OG 各位によるリレートーク) 第三部 懇親会	※2, 延 64 →22 →48 →51
1 月 例会	1/27 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演:「CPD 登録制度について」 講師: 杉本 哲雄 技術士 (建設部門・総監部門)</li> <li>・講演:「CPD 登録の実践」講師: 小宮 洋行 技術士 (上下水道部門)</li> </ul>	※1 21/16
2 月 例会	2/24 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演:「アイデア発想手法 『TRIZ (トゥリーズ)』のご紹介」 講師: 田中 久嘉 氏/ (株) 島津製作所 設計技術センター</li> </ul>	※2 36/28



### 3. 本・支部紹介

3月	3/31 (土)	技術士資格サポートセミナー：共催：日本技術士会 近畿本部 ・講演：「技術士を目指して」 講師：太田 高志 技術士補（電気電子部門） ・講演：「ようこそ技術士コミュニティへ！」 講師：今井 寿子 技術士（電気電子部門） ・講演：「中小零細でもあきらめない技術士受験」 講師：仲矢 順子 技術士（建設部門／森林部門） ・講演：「これからの技術士に求められること」 講師：加藤 直樹 技術士（機械部門）	※3 42/31
----	-------------	--	-------------

- ※会場
1. 大阪市立総合生涯学習センター（大阪駅前第2ビル5階）
  2. 大阪市立 住まい情報センター（天神橋筋六丁目）
  3. 島津製作所 関西支社マルチホール（阪急グランドビル14階）



近畿青年技術士懇談会 20周年記念例会での集合写真（2011年11月20日開催）

#### ■ 平成24年度活動計画と抱負

今年度も多彩な内容で月例会を開催する予定です。特に社会的課題となっているエネルギーの課題についてメンバーで学び、考える場を作ることを意識したいと思っています。

また8月には今年度も家族とも参加できるファミリーツアー（神戸／カワサキワールド見学）を実施しました。

今年度の抱負として、会則の見直し、ホームページのリニューアル、幹事会の運営、facebookの活用など会の運営の改善を図っていきます。

#### ■ その他

本年度の全国大会の青年の集い、青年イベントに関しては、近畿青年技術士懇談会が協賛としてお手伝いをさせていただいています。有意義な交流となりますことを祈念しています。

## 中国本部の紹介



代表者氏名：高木 周一

部 門：上下水道部門／環境部門

### ■ あいさつ

2009年から中国本部の青年技術士交流委員長を務めている高木です。今年が2期目の最終年になりますので、思い残すことのないよう委員長職を全うしたいと思います。

### ■ メンバー紹介

中国本部青年技術士交流会員（ML会員）は、現在 200 名以上の方が登録されています。ここでは、交流会を運営している青年技術士交流委員会のメンバーを紹介いたします。中国本部の青年技術士交流委員会は 14 名の委員で構成されています。

役職名	氏 名		所在	担 当
委員長	高木 周一	上下水道／環境	広島県	全体統括
副委員長	森保 直也	建 設	広島県	全体統括補佐、各県交流リーダー
委 員	鈴川 竜司	電気電子	広島県	例会リーダー、ML 管理
委 員	萬谷 昌毅	上下水道	広島県	見学会・ペあせろベ担当、会計担当
委 員	松本 伸介	農業（修習）	広島県	見学会・ペあせろベリーダー、各県交流担当
委 員	岡 正臣	建設（修習）	広島県	例会担当、各県交流担当、社会貢献担当
委 員	古賀 亮人	建設（修習）	広島県	社会貢献担当、HP管理リーダー、ML 管理
委 員	守谷 佳也	建 設	広島県	例会担当、見学会・ペあせろベ担当
委 員	金高 智之	建 設	広島県	例会担当、社会貢献リーダー
委 員	双和 祥二	機械（修習）	広島県	社会貢献リーダー、見学会・ペあせろベ担当
委 員	井上 真	応用理学	島根県	各県交流担当
委 員	池末 二郎	建 設	山口県	各県交流担当
委 員	今泉 雅之	建 設	岡山県	各県交流担当
委 員	福元 和孝	建設／応用理学	鳥取県	各県交流担当

### ■ 平成 23 年度活動報告と反省

平成 23 年度は、勉強会や社会貢献活動（小学生を対象とした理科教育支援）、国際交流フェスティバルへの参加など幅広い活動に取り組みました。

中国本部の青年技術士交流会では、毎月第 3 水曜日に勉強会を開催していますが、勉強会では

### 3. 本・支部紹介

幅広い技術分野から様々なテーマを扱い、技術分野の枠を超えた自己研鑽ができるように企画しています。昨年度は、これまでと違った取り組みとして、科学技術に関係のない業種の方にも講師をお願いしました。4月の勉強会は「新聞記者の仕事について」というテーマで、毎日新聞の矢追記者に講演いただきました。矢追さんには、新聞記者として自らが体験した様々なエピソードを熱く語っていただきました。その後も講師として、県議会議員(8月)やバーテンダー(10月)、細胞検査士(3月)といった科学技術分野以外の方々をお願いしました。これらの異業種の勉強会を開催したことで、青年技術士交流会がまた一つ階段を登ることができたと感じています。

その他にも、昨年度から青年技術士交流会の社会貢献活動として「夏休みの小学生の自由研究支援事業」を実施しました。この社会貢献活動は、理科離れが叫ばれている現代の子供たちに対して、科学技術に興味を持ってもらうことを目的として実施しました。昨年の社会貢献活動は、広島市の街中に架かる「橋めぐり」を開催しました。この「橋めぐり」は、広島市の京橋川に架かる橋のうち、七つの橋についてクイズを解きながらウォークラリーを実施し、橋の構造や歴史などについて理解を深めていくものでした。また、ウォークラリーの後は、子供達が興味を持った橋について、成果をまとめて発表してもらいました。

その他にも、恒例となった「国際交流フェスティバル」への参加により、我々の技術士会活動をさまざまな人にPRすることができました。

平成 23 年度活動一覧表

開催月	分類	内容	参加者数
H23.4月	例会・勉強会	新聞記者の仕事について	32名
5月	例会・勉強会	ソーラー型浄水装置を用いた被災地支援活動報告	24名
6月	例会・勉強会	日本農業における6次産業化の推進	26名
7月	例会・勉強会	夏休み特別企画スピーカーイヤホンを作ろう	21名
8月	例会・勉強会	広島県政について	21名
	社会貢献活動	橋めぐり～親子、一緒になって広島の橋体験～	40名
9月	例会・勉強会	3.11の地震及び津波と橋梁構造物の被災	27名
10月	例会・勉強会	職人・プロの技術と心のつながりについて	16名
	交流企画	国際交流フェスティバル(ぺあせろべ2011)参加	25名
11月	例会・勉強会	アセットマネジメント構成技術について	19名
	交流企画	島根県技術士会 産学交流会「おもしろ技術塾」	40名
12月	特別例会・勉強会・忘年会	東日本大震災についてリレー討議	16名
H24.1月	例会・勉強会	機械の振動と計測について	22名
2月	例会・勉強会	海の底を調べる方法	18名
3月	例会・勉強会	細胞検査士 細胞形態から病気を推定する	18名
4月	イベント	お花見プロジェクト	20名
	例会・勉強会	キャリアコンサルティング/カウンセリングとは	21名

社会貢献活動（橋めぐり）







■ 平成 24 年度活動計画と抱負

今年も毎月の勉強会や見学会、国際交流フェスティバル、社会貢献活動など精力的に活動していきます。今年の世界貢献活動は、8月25日に(財)広島市未来都市創造財団との共催事業で“防災のための”ものづくり教室を開催します。今年“ものづくり教室”の特徴は、東日本大震災を受けて防災の大切さを伝えるとともに、身近なもので災害などの危機的状況で役立つものをつくり、“役立つもの”が科学技術を応用してあることを体感してもらう企画としました。

毎月の勉強会では、スカイプを活用して各県技術士会の青年部の皆さんとの交流を深めていきたいと思ひます。

以上

## 四国本部の紹介

代表者氏名：小笠原 誠  
部 門：建設部門



### ■ あいさつ

一昨年度、新たにスタートした四国本部は、現時点において青年技術士が主体となる委員会等は組織化できておりません。しかし、今後の本部の活性化や統括本部・他地域本部との人的交流や情報共有・交換は、まだまだ発展途上の我々四国の青年技術士のスキルアップのためにも、必要不可欠であると考えております。以上のことから、昨年度（平成 23 年度）は組織化の準備期間とした活動を行い、本年度初秋には正式な「四国青年技術士交流会」として組織化される予定となっており、技術士全国大会時には、正式な四国本部青年技術士交流会として参加できると考えております。

交流会の起ち上げや運営に際して、統括本部ならびに地域本部の青年技術士の皆さまにはご助言、ご指導を賜りたくお願い申し上げます。

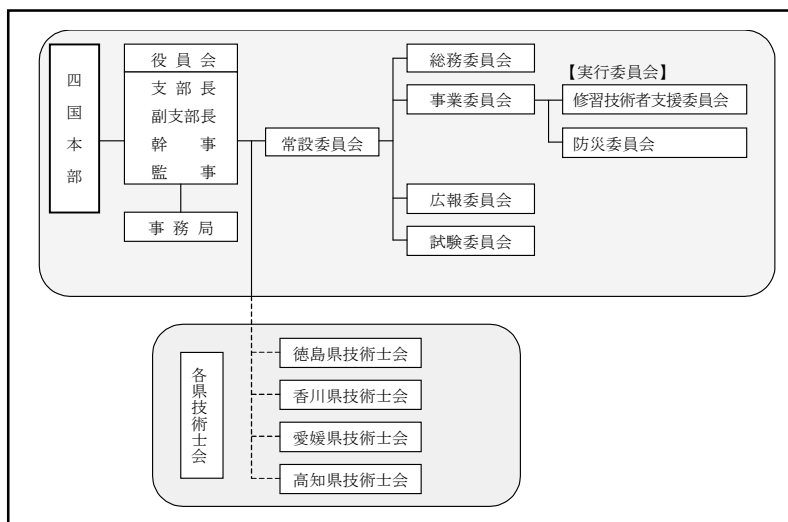


図 1 四国本部組織図

### ■ メンバー紹介

平成 24 年度初秋の「四国本部青年技術士交流会」の起ち上げに向け、修習技術者支援委員会において準備会を設置し、四国四県から集まったメンバー（表 1）で活動しております。

表 1 四国本部青年技術士交流会準備会メンバー

所属県	氏名	部門	勤務先
徳島県	阿部 宏一	建設	四国建設コンサルタント(株)
	佐藤 悦史	建設	エスシー企画(株)
香川県	綾 貴穂	建設	復建調査設計(株)
	小笠原 誠	建設	(株)四電技術コンサルタント
愛媛県	曾我部 潤	応用理学	(株)アースコンサルタント
高知県	芝田 和仁	建設	(株)ロイヤルコンサルタント

■ 平成 23 年度活動報告と反省

平成 23 年度における活動は、平成 24 年度の「四国本部青年技術士交流会」正式起ち上げに向けた、①活動方針や活動規約等の作成や②青年技術士の懇親会の実施等が挙げられます。

平成 24 年 4 月 21 日に四国本部主催の「平成 23 年度 技術士第二次試験合格者祝賀会(香川会場)」が、講師として中国本部青年技術士交流委員長の高木氏をお迎えし開催されました。それに併せ、祝賀会終了後に青年技術士を対象にした懇親会を、高木氏を囲み開催しました。懇親会には、香川県と徳島県から青年技術士が 10 名以上集まり、今後正式に発足する四国本部青年技術士交流会に対する意見や要望を語り合う場となるとともに、青年技術士間の交流を深めました。

また、様々な場における青年技術士からの意見や要望を踏まえ、四国本部青年技術士交流会の活動目的や活動方針、平成 24 年度の活動内容、四国本部青年技術士交流会規約を準備会メンバーが協力し作成しております。四国本部青年技術士交流会の活動目的は、「本委員会は、四国地域における若手技術士を中心とする技術者ネットワークを構築し、会員相互の能力向上を果たすとともに、技術士としてその職能をもって広く地域社会に貢献し、技術士の地位向上を果たすことを目的とし活動する。」としております。

■ 平成 24 年度活動計画と抱負

四国本部青年技術士交流会の活動初年度となる平成 24 年度の活動方針は、「①青年技術士として幅広い能力向上を図る」、「②四国地域の青年技術士相互の交流を図る」としております。具体的な活動内容としては、幅広い能力向上を図ることを目的とし、修習技術士者支援委員会が開催する「修習技術者支援セミナー」に併せて「青年技術士交流会勉強会」を数回開催することと、四国本部内青年技術士間の情報共有を目的としたメーリングリストの作成、全国の地域本部との交流を目的とした技術士全国大会「青年技術士の集い」への参加を予定しております。

■ おわりに

四国本部は他の地域本部に比べ小さな組織であります。活動初年度から多種多様な活動は難しいと考えております。しかし、志(方針)は大きく持ち、確実に活動できることを一つからでも着実に実施していきたいと考えており、来年度には具体的な活動結果が報告できるものと思っておりますので、今後ともご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

<b>活動目的</b> 本委員会は、四国地域における若手技術士を中心とする技術者ネットワークを構築し、会員相互の能力向上を果たすとともに、技術士としてその職能をもって広く地域社会に貢献し、技術士の地位向上を果たすことを目的とし活動する。
<b>平成24年度 活動方針</b> 平成 24 年度は青年技術士交流委員会の活動初年度となることから、まずは四国地域の青年技術士間ネットワークの構築を主として、以下の活動方針に基づき活動する。 【方針 1】 青年技術士として幅広い能力向上を図る 【方針 2】 四国地域の青年技術士相互の交流を図る
<b>平成24年度 活動内容</b> 【活動 1】 〈能力向上のための活動〉 ・ 修習技術者支援セミナーの開催に併せた、青年技術士交流委員会勉強会の開催 【活動 2】 〈技術者ネットワーク構築のための活動〉 ・ 青年技術士交流会の開催 (H25.4) ・ 技術士全国大会「青年技術士の集い」への参加 (H24.9) ・ 四国地域の青年技術士メンバーによるメーリングリストの構築・運営による情報交換・交流の促進

## 九州本部の紹介



代表者氏名:持田拓児  
部 門:建設部門

九州本部の活動報告をいたします。

【①定例会】2ヶ月に1度定例会を開催し、12月には年に1度の公開講演会を実施しています。昨年の公開講演会では、「河川水の自然エネルギーを利用したフラッタ発電システム（福岡工業大学機械知能工学科 教授）」、「沿岸防災工学における地震と津波（㈱三洋コンサルタント部長）」について講演をいただきました。今年は新たなテーマで、1年間委員会行事を進めてまいります。



昨年8月（小学生の夏休み自由研究教室：福岡工業大学ロボット体験）

【②小学生自由研究教室】我々若い技術者が子供たちにできることはないかと考えたイベントとして、「現役技術者が教える小学生のための夏休み自由研究教室」を4年連続8月に実施しました。一昨年は福岡市港湾局に御協力いただき、「福岡市アイランドシティ国際コンテナターミナル見学会」を実施し、昨年は「西部ガス㈱福北工場見学会」を実施し、身近なエネルギーがどのように作られ、各家庭に供給されているか体感してもらうことを目的として、見学や実験及び夏休みの自由研究作成を行いました。今年（第4回）は、福岡工業大学で空気圧ロボットアームの遠隔操縦体験・サッカーボールの魔球発射装置体験・風洞を用いた魔球の再現や多くの研究施設の見学と体験を行ない、子供たちも忘れられない大興奮の1日となりました。

【③見学会】毎年10月末～11月初旬には、年間テーマに沿った見学会（1泊2日）を開催しております。昨年は南九州のエネルギー施設めぐりで鹿児島方面を予定しておりましたが、10月末の台風で延期となり、今年の6/4～6/5に再チャレンジしました。何と！1泊2日：10,000円と格安で、夜はバーベキューで盛り上がりました。

【④最後に】九州にお越しの際、転勤の際には、必ずご連絡ください。皆様をお待ちしております。



昨年8月（全国大会青年の集い：東京大会）



昨年6月（見学会：南九州エネルギー施設見学）



3. 本・支部紹介

平成 23 年度活動報告

日時	場所	会議・行事名	内容
平成23年4月2日(土) 17:15~19:00	商工会議所 地下1階	技術士1次・2次試験合格祝賀会	技術士1次・2次試験合格祝賀会
平成23年4月22日(金) 18:30~21:00	福岡ビル会議室 第1ホール	青年技術士交流委員会 平成23年4月定例会	・東北地方太平洋沖地震 復旧活動の一例 (講師: 箆島秀利氏 (西部ガス株)) ・東北地方太平洋沖地震と地震の基礎知識について ・東日本大震災の津波について
平成23年6月4・5 (土, 日)	南九州	見学会【南九州のエネルギー施設を訪ねて】	①串木野国家石油備蓄基地、②焼酎蔵“薩州濱田屋伝兵衛”、③山川地熱発電所、④知覧特攻平和会館 宿泊先: いやされの宿 田舎や (コテージ&バーベキュー)
平成23年6月22日(水) 18:30~21:00	福岡ビル会議室 第6ホール	青年技術士交流委員会 平成23年6月定例会	・1分間スピーチ ・技術士合格体験談 ・巨大地震・テロ-わが国の危機管理対策の現状と課題
平成23年8月20日(土) 13:00~17:00	福岡工業大学 工学部	現役技術者が教える夏休み小学生自由研究教室	・空気圧ロボットアームの遠隔操縦体験 ・サッカーボールの魔球発射装置体験 ・風洞を用いた魔球の再現 など、多くの研究施設の見学と体験
平成23年8月20日(土) 18:00~	ピアレストランパ ブ キリン	青年技術士交流委員会 8月特別定例会	ピアホール大会 (自由研究教室打上含む) in キリン
平成23年12月10日(土) 13:30~17:00	福岡工業大学工学部 α棟4階多目的 ホール	公開講演会	・公開講演会: ①河川水の自然エネルギーを利用したフラッグ発電システム ②沿岸防災工学における地震と津波
平成23年12月10日(土) 18:30~	ぎょくちょう	望年会	1年を締めくくる”望年会”
平成24年2月24日(金) 18:30~21:00	技術士会九州支部 会議室	青年技術士交流委員会 2月定例会	・今年度のおさらい ・来年度の計画立案

■ 平成 24 年度活動予定

日時	場所	会議・行事名	内容
平成24年4月21日(土) 14:00~19:00	商工会議所 4階会議室及び地下1階	九州本部CPDと技術士1次・2次試験合格祝賀会	・九州本部CPD ・技術士1次・2次試験合格祝賀会
平成24年6月22日(金) 18:30~21:00	福岡ビル会議室 第1ホール	青年技術士交流委員会 平成24年6月定例会	・1分間スピーチ ・話題提供 (BCP事業継続計画) について ・ホットな話題 (大山ダムについて)
平成24年8月18日(土) 13:00~17:00	九州大学と今津干潟	現役技術者が教える夏休み小学生自由研究教室	～生きた化石! カプトガニを探そう!!～ 今津干潟の形成メカニズム、生物の巣穴など自分たちで探し、感じ、探求しよう!
平成24年8月18日(土) 18:30~	ピアホール選定中	青年技術士交流委員会 8月特別定例会	ピアホール大会
平成24年10月後半予定	大分方面	見学会	エネルギー施設めぐり
平成24年12月1日(土) 13:30~17:00 ・17:30~	福岡工業大学工学部 α棟4階多目的ホール、 校内レストラン「オアシス」	公開講演会・望年会	・内容選定中
平成25年2月22日(金) 19:00~21:00	技術士会九州支部 会議室	青年技術士交流委員会 2月定例会	・今年度のおさらい ・来年度の計画立案

### 3. 本・支部紹介

九州本部では3グループに分かれておりますが、今年度よりグループ長が何と、全員女性になりました！これからの九州本部は、女性の時代です。

役職	氏名	部門	住所	役割分担
委員長	持田 拓児	建設	福岡	青年技術士交流委員会運営総括
広報	上杉 吉史	建設	福岡	・メーリングリスト管理 ・定例会案内メール配信と参加名簿を担当Gへ
会計	佐田 英一郎	建設	福岡	・現金・預金管理
Aグループ ・4月CPD ・8月夏休み自由研究教室 ・8月特別例会(ピアホール) ・12月望年会	★☆☆ 上原 志穂	応用理学	福岡	<b>■担当グループの役割</b> ・各イベント準備全般 (会場手配、案内・次第作成など) ・運営委員会司会進行、参加受付
	☆☆ 篠島 秀利	化学	福岡	
	伊藤 英忠	修習-応用理学	福岡	
	村上 昌彦	建設	福岡	
	野口 宏	建設・環境	大分	
	平岡 昭仁	修習-建設	福岡	
	古島 恵美	応用理学	熊本	
	松本 義信	建設	福岡	
	松井 マスミ	修習	福岡	
	田辺 努	機械	北九州	
Bグループ ・4月合格祝賀会 ・10月見学会 ・2月定例会	★☆☆ 高木 麻衣	建設	福岡	①ホットな話題・ノウハウ・話題提供の案作成、運営委員会に提出(1ヶ月前) ↓ ②定例会案内作成 メール送付(3週間前) ↓ ③当日運営 ・受付 ・司会進行 講演者の弁当ビール準備 ↓ ④議事録作成・アップロード (1週間以内)
	☆☆ 山田 伸雄	建設	福岡	
	池田 圭一	応用理学	鳥栖	
	姜 忠男	応用理学	北九州	
	角 裕	機械	福岡	
	森 浩光	建設	福岡	
	田上 健一	建設	福岡	
	梅田 和久	建設	福岡	
	石本 俊亮	建設	福岡	
寺田 利博	建設	熊本		
Cグループ ・6月定例会 ・12月公開講演会 ・次年度4月CPD	★☆☆ 岩根 陽子	建設	福岡	
	☆☆ 吉村 継彦	建設	福岡	
	加藤 友規	機械	福岡	
	太田 あかね	建設	福岡	
	田原 和久	建設	福岡	
	柿本 悦二	金属	福岡	
	稲垣 浩通	建設	福岡	
	阿部 聖	建設	福岡	
	西尾 行生	機械	佐賀	
森川 敏郎	機械	福岡		

★☆☆:グループリーダー  
☆☆:サブグループリーダー